

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目次

川崎市社会福祉協議会

	頁
基本方針・重点事業	1
1 法人運営事業	3
2 調査・研究事業	3
3 研修事業	4
4 企画・広報事業	4
5 区社協推進事業	5
6 助成事業	6
7 部会・委員会事業	7
8 福祉基金運営事業	11
9 資金貸付事業	11
10 共同募金事業	11
11 受託事業	12
12 ボランティア活動振興センター事業	15
13 あんしんセンター事業	17
14 地域生活支援SOSかわさき事業	19
15 高齢センター管理経営事業	20
16 居宅介護等事業	21
17 老人いこいの家管理経営事業	23
18 老人福祉センター管理経営事業	23
19 公益事業	23
20 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	26
21 災害活動関連事業	26
22 その他	27
川崎市川崎区社会福祉協議会	28
川崎市幸区社会福祉協議会	35
川崎市中原区社会福祉協議会	43
川崎市高津区社会福祉協議会	49
川崎市宮前区社会福祉協議会	59
川崎市多摩区社会福祉協議会	69
川崎市麻生区社会福祉協議会	80

令和2年度 事業報告

基本方針

多様な社会福祉制度が充実していく一方で、社会環境の変化を背景に地域では孤独死、社会的孤立、ひきこもり、児童虐待、DV、自死・自殺などの課題に加え、8050問題、ダブルケア、ヤングケアラーなど住民ニーズや地域が抱える課題が多様化・複雑化してきており、制度やサービスの狭間により生活のしづらさを抱える世帯が全国的に増加しています。

令和2年に入り、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、生命と健康を守るため、感染症対策に取り組むと同時に、社会・経済活動の停滞により、雇用や家計などに大きな影響が及んでいます。また、いわゆる3つの密の回避やソーシャル・ディスタンスの確保が求められる中で、私たちの日常生活のあり方や働き方も大きく様変わりしました。さらには、新型コロナウイルス感染症などの影響により、生活困窮者が増加するなど、これまでの地域・福祉課題はより深刻化してきています。

本会においては、これまでも地域福祉の向上を目的とする団体として、住民主体の理念に基づきながら、「社会福祉協議会だからこそ出来る住民に寄り添った取組」を市民、関係団体・組織、行政等と連携し、事業展開してきたところですが、さらに組織経営の健全化を図るため、令和2年4月1日に7つの区社会福祉協議会と合併し1つの社会福祉法人となり、地域包括ケアシステム構築の担い手としての役割を十分に果たせるよう、さらなる地域福祉の推進に努めてまいりました。

令和3年3月に、今後の基本方針となる「地域包括ケア推進に向けた市社協の基本方針～社協骨太方針～」とともに、令和3年度～5年度までを期間とする「第5期地域福祉活動推進計画」を策定しました。さらに、組織経営計画の中間見直しに取り組みました。

指定管理事業では、令和3年度から、川崎市複合福祉センター内に設置される総合研修センターについて、本会が指定管理事業者として指定を受けて、運営のための準備を行いました。

このほか、新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年度の理事会及び評議員会は、決議の省略の形で開催しました。

以上、令和2年度事業計画のもと、4項目の重点事業を柱として事業を実施してきましたので、次のとおり報告します。

◆重点事業◆

○ 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中において、本会で実施するすべての事業及び施設運営等において、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により生活困窮に陥った方への支援として、生活福祉資金特例貸付の相談対応を強化して実施し、令和3年3月31日現在で緊急小口資金及び総合支援資金を合わせて、約100億円の貸付額となりました。

更には、市民や社会福祉法人、企業など多様な団体、組織と協力しながら生活困窮の方々や学生に食糧支援の取組として「食糧支援かわさき」を実施するとともに、福祉施設への就労支援を行いました。

1 合併を契機とした、社協らしい地域包括ケアシステムの推進

本会と区社協は、合併後1,300の会員で構成される一つの法人となり、本会は経営基盤を強化し組織の安定的な維持を図りながら多種多様な会員の力を結集し、区社協は本会の支部として従来の事業を継続しつつ、地区社協等への支援をより柔軟で機動的に行うなど、地域に根差した展開を図りました。

合併後の体制として、区社協に常任委員会を設置し、区社協会長は本会理事、区社協副会長は本会評議員となり本会の理事会・評議員会を通じて、区社協の事業推進に係る予算や事業計画に参画するとともに、合併法人として一体的な運営を図りました。また、社協会員の特性を活かした「川崎市社会福祉協議会・地域包括ケア推進会議」で積み重ねてきた会員間の連携、情報共有、社協・地ケアだよりによる情報発信、事例集の発行等で成果を広く地域に浸透させることにより、社協らしい地域包括ケアシステムのより一層の推進を図りました。

2 組織経営基盤の強化に向けた取組

経営改善の方策として、介護保険経営安定化基金からの期間を限定した一定額の充当、退職する職員の不補充、全ての事業・予算化の精査と財源確保、委託事業等の見直し、効率的な組織運営方法など、経営基盤の強化と財政健全化に取り組みました。

成年後見制度利用促進の取組として、家庭裁判所や弁護士等の職能団体との連携強化とともに、中核機関の運営・仕組みづくりに向けた体制強化を図りました。川崎市総合リハビリテーションセンターの研修拠点である「総合研修センター」の令和3年4月開設に向けて、指定管理者として行政と連携を図りながら、準備に取り組みました。

老人いこいの家及び老人福祉（・地域交流）センターの指定管理事業は、区社協とのグループ事業としてきたものを市社協契約の事業として、一層の充実したサービス提供を行いました。本会の拠点である川崎市総合福祉センターについては、今後大規模改修が予定されており、その影響を見据えて次期指定管理事業者として取り組むこととなりました。

人材育成計画を推進し、地域住民から信頼される職員を育成するため、職員のスキルとモチベーションの向上を図りました。地域福祉への貢献の善意をより活かす仕組みづくりとして、協賛会費や寄附などの取組を強化しました。

3 第5期地域福祉活動推進計画の策定

第5期地域福祉活動推進計画について、計画策定委員会を立ち上げるとともに、各区社協における「地域福祉活動計画」の推進を支援する役割を明確化し、法人の公益的取組への支援や災害に強い地域づくりの推進を重点的取組とした、オール川崎社協の計画を策定しました。

また、第二段階にある川崎市における地域包括ケアシステムの進捗を見据え、行政計画である「第6期川崎市地域福祉計画」策定との共同作業を通じながら、行政施策との一層の連携強化を図るとともに、地域包括ケアシステム推進の仕組みづくりとして、行政と協働してコミュニティソーシャルワークの推進に向け、準備を行いました。

4 地域防災力の向上

川崎市、かわさき市民活動センター及び本会の役割分担を含めた「災害ボランティアセンターに関する協定書」の見直し等により、想定される大規模災害に備えた災害ボランティアセンターの運営体制の強化に向けて、3者による協議・検討を行いました。

事業報告の内容

1 法人運営事業【349,463千円】

【サービス区分事業活動支出 346,467千円】

【サービス区分施設設備等支出 1,044千円】

【共同募金配分金 1,952千円】

(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

- ア 三役会の開催 4回（6月8日、10月6日、12月14日、3月11日）
- イ 理事会の開催 6回（4月1日、6月12日、6月29日、10月15日、12月18日、3月18日※決議の省略）
- ウ 評議員会の開催 4回（6月29日、10月26日、2月10日※決議の省略、3月29日※決議の省略）
- エ 評議員選任・解任委員会の開催 1回（6月17日）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

- ア 監事会の開催 1回（6月5日）
- イ 会計監査人（太陽有限責任監査法人）による監査の実施
- ウ 会計監査人による監査報告の実施
- エ 会計監査人による監査計画の説明（10月15日）

(3) 会員の増強 令和2年度入会会員

- ア 正会員 10（第6種 10施設）
- イ 協賛会員 0

	R2実績	H31実績
正会員数	471	473
協賛会員数	14	14

(4) 苦情解決の実施と推進

- ア 苦情受付件数 3件
- イ 第三者委員会議の開催 1回（7月20日）

2 調査・研究事業【1,966千円】

【サービス区分事業活動支出 377千円】

【共同募金配分金 1,589千円】

(1) 川崎市・区社会福祉協議会正副会長会議の開催 1回

（4月16日、3月15日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(2) 組織経営計画の推進・財政基盤の強化

- ア 組織経営プロジェクトの開催 30回

(3) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

ア 第5期地域福祉活動推進計画の推進

(ア) 第5期地域福祉活動推進計画策定委員会の開催 6回

(書面開催、7月15日、8月7日、11月11日、12月9日、3月1日)

(イ) 令和2年度 川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会・川崎市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会意見交換会 2回(8月7日、10月12日)

イ 第4期地域福祉活動推進計画の推進

第4期地域福祉活動推進計画推進委員会の開催 1回(3月29日※書面開催)

ウ 地域包括ケアシステム推進連絡会議の開催 1回

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため動画配信にて実施

(配信期間:10月9日~11月11日 時間:92分)

エ 地ケア事例集の発行 1回(3月)

(4) 人材育成計画の推進

ア 人材育成計画推進員会議の開催 4回

(8月4日、9月3日、11月17日、12月21日、2月15日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

3 研修事業 【311千円】

【サービス区分事業活動支出 144千円】

【共同募金配分金 167千円】

(1) 職員研修の実施

	R2実績	H31実績
研修数 (件)	5	13
受講人数 (延べ)	428	179

ア 新規採用職員研修 3回(4月2日、9月2日、12月2日)

イ 階層別(課長)研修 1回(10月~12月のうち半日をe-ラーニングにて実施)

ウ 職員基礎研修 1回(1月~3月 ※各職場での動画視聴研修)

エ メンター研修 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 各種研修への参加・職員資格取得補助

ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 6回(延べ7名)

イ 職員の資格取得の補助 延べ12名

4 企画・広報事業 【3,546千円】

【サービス区分事業活動支出 351千円】

【共同募金配分金 3,195千円】

(1) 令和2年度川崎市社会福祉功労者表彰 川崎市社会福祉協議会表彰の開催

※川崎市社会福祉大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、表彰式のみ実施
表彰式（10月27日） 参加者13名

(2) 広報紙「川崎の社会福祉」の発行・リーフレットの発行

ア 広報紙「川崎の社会福祉」 年3回（589号～591号）

589号は48,000部、590号・591号は各12,000部発行

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため町会・自治会回覧不可による発行部数減

イ リーフレット 1,500部発行

(3) 会員会費制度等検討委員会の開催 3回（9月28日、10月30日、12月17日）

(4) ホームページの運用と管理、ウェブアクセシビリティの取組

ア ホームページ

(ア) 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ

(<http://www.csw-kawasaki.or.jp/>)

(イ) 川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）ホームページ

(<http://www.sfc-kawasaki.jp/>)

(ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

(<http://k-fukumimi.com/>)

(エ) 川崎市福祉人材バンク ホームページ

(<http://www.csw-kawasaki.or.jp/jinzai/index.html>)

(オ) 川崎市高齢社会福祉総合センター ホームページ

(<http://www.kourei-c.jp/>)

(カ) ShareSmileかわさき特設サイト

(<https://sharesmile-kwsk.wixsite.com/sharesmile>)

イ フェイスブック、ツイッター

(ア) 川崎市社会福祉協議会（災害情報専用）フェイスブック、ツイッター

(イ) かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック

(ウ) 川崎市福祉人材バンク フェイスブック

(エ) 川崎市高齢社会福祉総合センター フェイスブック、ツイッター

(オ) ShareSmileかわさき ツイッター

5 区社協推進事業【183,984千円】

【サービス区分事業活動支出 183,738千円】

【共同募金配分金 246千円】

(1) 川崎市・区社会福祉協議会正副会長会議の開催【再掲】 ⇒2-(1)

(2) 区社協事業との連携・協働

- ア 川崎市社協・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換
- イ 区社協地域課職員研修の開催 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 地区・区社協役職員等の研修会の開催（地域部会事業）

- ア 地域部会トップセミナー（3月5日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- イ 地区社協役員等研修会（3月5日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

6 助成事業【11,331千円】

【サービス区分事業活動支出 11,331千円】

(1) 社会を明るくする運動への協力

第70回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

- ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額350,000円
- イ 二子老人いこいの家に助成 助成額350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

川崎市民間社会福祉施設連絡協議会を開催し、本会会員の民間社会福祉施設に対し助成

- ア 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会 3回（7月16日、10月8日、3月18日）
- イ 福利厚生費の助成 95法人・施設（6,435名） 計 1,888,350円

(4) ふれあい活動支援事業の推進

- ア 会食活動に助成 110団体 計 14,488,471円
- イ 配食活動に助成 6団体 計 1,300,000円
- ウ ミニデイサービス活動に助成 13団体 計 2,700,000円
- エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催

（1月14日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- オ 実施団体に対しコロナ禍における「安全な高齢者ふれあい活動のためのガイドライン」送付

(5) 交通遺児給付金の交付

小学校入学・中学校入学・中学校卒業・高等学校を卒業する交通遺児がいる世帯に対し給付金を交付 3名 給付額200,000円

(6) 法定外緊急援護事業資金の交付（生活困窮者緊急援護資金）

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額324,000円

(7) 母と子のつどい

県社協「令和元年度母と子のつどい」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止【支出なし】

(8) 福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 2団体 計207,000円

(9) 障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 10団体 計950,000円

7 部会・委員会事業【4,748千円】

【サービス区分事業活動支出 2,786千円】

【共同募金配分金 1,962千円】

(1) 部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

- (ア) 正副部会長会議 3回(10月15日、2月5日、3月19日)
- (イ) 部会議 2回(7月30日、3月22日※書面審議)
- (ウ) 地域部会トップセミナー【再掲】 ⇒5-(3)
- (エ) 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-(3)

イ 法人経営者部会

- (ア) 部会議 2回(書面開催、3月12日)
- (イ) 企画委員会議 3回(6月30日、12月22日、3月5日)
- (ウ) 研修会 1回(12月25日)
- (エ) 大都市社会福祉施設協議会(川崎市大会)実行委員会(2月26日)
- (オ) 情報提供の実施

ウ 施設部会

- (ア) 部会議 6回(5月23日、6月2日、10月8日、12月17日、2月26日、3月18日)
- (イ) 研修会 3回(1月21日、1月22日、3月12日)
- (ウ) 第62回大都市社会福祉施設協議会 実行委員会及び準備会
- (エ) その他アンケート調査等(各施設における新型コロナウイルスへの対応について)

エ 保育協議会

- (ア) 総会 1回(書面審議)
- (イ) 代表者委員会 3回(書面開催、6月22日、3月12日)
- (ウ) 第47回川崎市保育まつり(収録、配信にて実施)
- (エ) 第39回川崎市保育研究大会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- (オ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等
 - a 全保協協議員総会 2回(5月22日、2月19日)
 - b 全国保育組織正副会長会議 1回(12月2日)
 - c 関東ブロック保育協議会会長会 5回(6月12日、9月28日、1月18日、1月18日、2月19日)
 - d 第61回関東ブロック保育研究大会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

e 関東ブロック保育事業連絡協議会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ 老人福祉施設協議会

(ア) 施設長会 6回(書面、6月17日、8月26日、10月21日、
12月16日、2月17日)

(イ) 正副会長会議 7回(5月14日、6月9日、8月4日、10月2日、
12月3日、2月2日、2月10日)

(ウ) 災害プロジェクト委員会 3回(7月2日、9月28日、2月12日)
BCPに関する研修会 1回(2月3日)

(エ) 人材プロジェクト委員会 12回(5月28日、6月5日、7月15日、
9月16日、10月7日、11月6日、11月11日、11月18日、
1月20日、2月2日、3月10日、3月18日)
ハローワーク説明会 2回(10月23日、1月27日)

a ワーキンググループ

(a) 人材定着グループ 3回

(b) 人材発掘グループ 7回

(c) 人材確保についての情報収集、提供グループ 2回

(オ) 平成31年(令和元年)度決算に基づく特別養護老人ホーム収支状況調査及び、
新型コロナウイルス感染症による収支への影響調査(7月28日～8月31日)

(カ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等

a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 3回(書面、5月22日、
12月18日)

b 首都圏高齢者福祉協議会 1回(10月29日)

c 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回(書面)

d 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会等 6回(書面報告、5月15日、7月9日、
9月7日、1月12日、2月15日)

e 神奈川県老人福祉施設協議会研修会 2回(3月24日、3月25日)

f 第18回かながわ高齢者福祉研究大会・関東ブロック老人福祉施設研究総会合同大会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

カ 障害者福祉施設協議会

(ア) 施設長会 4回(書面、7月20日、9月1日、2月24日)

(イ) 正副会長会議 4回(7月14日、9月1日、1月7日、2月2日)

(ウ) 障害福祉施設関係者等研修会

a 老人福祉施設協議会主催の研修を案内 1回(2月3日)

b 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回(11月18日)

キ 児童・母子福祉施設協議会

(ア) 総会・施設長会 4回(6月4日、8月28日、11月10日、2月22日)

(イ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回(9月9日)

(ウ) 研究発表会 1回(2月18日)

(エ) 職員交流会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ク 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会【再掲】 ⇒6-(3)-ア

ケ 民生委員児童委員部会

(ア) 代表者会議 3回(6月16日、12月4日、3月10日)

(イ) 部会議 2回(7月21日※書面開催、3月22日)

(ウ) 研修会 1回

a 新任民生委員児童委員研修会(10月19日)

b 民生委員部会研修会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

コ 保護司部会

(ア) 代表者会議 2回(6月30日、3月24日)

(イ) 部会議 1回(7月22日※第8種会員会議と併せて書面審議にて開催)

(ウ) 研修会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

サ 障害者団体部会

(ア) 団体部会 4回(6月10日、8月12日、12月2日、3月25日)

(イ) 正副部会長会議 4回(6月10日、8月12日、11月25日、2月9日)

(ウ) 障害者団体リーダー研修 3回(11月18日、3月12日、3月19日)

シ ボランティア団体部会

(ア) 部会議 4回(7月2日、9月14日、11月13日、1月26日)

(イ) 研修会「災害ボランティアセンターの運営について」

(2月13日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

(2) 各種委員会、種別会員会議の開催

ア 種別会員会議

(ア) 第8種会員会議(7月22日)保護司部会と併せて書面審議にて開催

(3) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

ア 都道府県・指定都市社会福祉協議会部・課・所長会議(4月23日~24日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

イ 都道府県・指定都市社会福祉協議会 常務理事・事務局長セミナー(8月※動画視聴)

ウ 都道府県・指定都市社協常務理事・事務局長会議

(1月29日※参集しての開催を中止)

エ 指定都市社会福祉協議会・民生委員児童委員連盟連絡協議会

(7月9日~10日※書面審議)

オ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会総務部課長会議

(7月10日※書面審議)

カ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会常務理事・事務局長会議

(9月11日※書面審議)

キ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会会長会議

(11月20日※書面審議)

ク 春季関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当・部課長会議(6月12日※書面審議)

- ケ 秋季関東甲信越静ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当者研究協議会（11月19日※オンライン）
- コ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会幹事会 1回（2月5日※オンライン）
- サ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会幹事会 1回（2月18日※オンライン）
- シ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会全体会 2回（6月10日※書面審議、2月26日※書面審議）
- ス 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会全体会 1回（6月10日※書面審議）
- セ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会常務理事・事務局長会議（12月10日※オンライン）
- ソ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長オンラインセミナー（11月17日※オンライン）
- タ 都道府県・指定都市社協災害ボランティアセンター会議（1月22日）
- チ 神奈川県社会福祉協議会令和2年度災害担当者等情報交換会（2月4日）

(4) 第63回大都市社会福祉施設協議会（川崎市大会）の準備

- 実行委員会 1回（2月26日）
- 実施に関する意向調査 1回
- 会員都市からの意見聴取 1回
- 準備会（札幌市、広島市、川崎市による） 1回（書面）

(5) 第47回川崎市保育まつり

映像配布（DVD）及びYouTube配信（視聴対象者、期間限定）による実施。

(6) 障害者の日キャンペーン事業

- ア 障害者週間啓発用ポスター掲示
 - (ア) JR南武線主要5駅構内 12月3日～12月10日
 - (イ) 総合福祉センター内 12月3日～9日
- イ JR川崎駅アゼリアビジョンでの広報 11月27日～12月3日
- ウ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月27日
- エ 障害者週間街頭キャンペーン 12月5日
川崎駅・武蔵溝の口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りティッシュを配布 3,000個
- オ 区役所及び区社協窓口に、啓発用ティッシュを配架

(7) 子ども虐待防止運動事業

- ア オレンジリボンたすきリレー ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- イ 関係機関や団体へ啓発チラシの配布
- ウ 市内スポーツチームのホームゲーム等で啓発チラシの配布

- (ア) 川崎ブレイブサンダース (12月15日)
- (イ) NECレッドロケッツ (12月4日、5日)
- (ウ) 川崎フロンターレ (フロンタウンさぎぬまでの配布)
- エ 子育てフェスタ等での啓発活動

8 福祉基金運営事業【2,398千円】

【寄附・利息等収入 2,398千円】

(1) 「住民主体による居場所づくりに向けた支援」に関する協議・検討

福祉基金運営委員会 2回 (6月24日、3月17日)

(2) 令和2年度福祉基金状況

- ア 寄付金額総額 271,000円 (3件)
(平成31年度 316,420円 (4件))
- イ 年度末基金残高 335,574,163円
(平成31年度 333,414,162円)

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(9)

9 資金貸付事業【2,989千円】

【サービス区分事業活動支出 2,989千円】

(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務 (貸付は平成27年度に終了)

償還状況 (臨時費10件 計5,956,300円 償還率100%)

(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

- ア 経営改善相談 11件
- イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし
- ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし
- エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年4回
- オ 研修会の実施 2回 (11月30日、2月10日) 参加者延べ68名

10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動 (年末たすけあい運動含む) への協力

	R2	H31
一般募金全市実績額 (円)	78,707,484	92,756,891
年末たすけあい募金全市実績額 (円)	51,666,184	59,795,085

(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 70,428千円】

ア 法人運営事業	【 1,956千円】
イ 調査研究事業	【 1,589千円】
ウ 研修事業	【 167千円】
エ 企画・広報事業	【 3,195千円】
オ 区社協推進事業	【 246千円】
カ 部会・委員会事業	【 1,962千円】
キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	【 495千円】
ク 区社協活動費助成金事業	【59,478千円】
ケ その他、地域福祉の推進のための事業	【 1,344千円】
(ア) 子育て支援事業	
(イ) 児童福祉週間施設訪問事業	
(ウ) 敬老祝い金品贈呈事業	
(エ) 障害者団体等活動助成事業	

(3) 共同募金のあり方に関する検討

共同募金等事業検討会議 4回（7月22日、8月25日、9月15日、11月12日）

1.1 受託事業【138,472千円】

(1) 福祉パル受託事業（各区1箇所 計7箇所）

【サービス区分事業活動支出 18,548千円】

- ア 地域福祉活動の拠点施設である市内7区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託
- (ア) 活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援
 - a 研修室 年間利用数 1,270件（全市）
 - b ボランティアコーナー 801件（全市）
 - (イ) 備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

(2) 福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 33,977千円】

ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R2実績	H31実績
就職件数（件）	8	20

- (ア) 年間有効求人延べ数 7,418件
- (イ) 年間有効求職延べ人数 969件
- (ウ) 就職件数 8件
- (エ) 福祉の仕事に関する相談件数 43件

(オ) 求職者スカウトサービスの実施

a スカウト件数 43件

b 応募数 0件

イ 福祉のお仕事就職・転職フェア（就職相談会）の開催

2回（6月28日、12月14日）⇒新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

	R2実績	H31実績
来場者数（人）	0	171

延べ面談数0件 就労予定人数0名

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R2実績	H31実績
各種研修会等の開（回）	14	18
参加者数（延べ人数）	196	208

(ア) 看護師の人材確保事業

a 看護師の福祉施設見学会⇒中止

b 看護職の医療技術再確認研修

(a) 川崎市立川崎病院の認定看護師勉強会

全5回 109名参加（前年 全6回 54名参加）

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い1回中止

全5回のうち2回オンライン形式で開催

(b) 川崎市立井田病院の認定看護師勉強会

全1回 1名参加（前年 全6回 34名参加）

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い1回中止

c 福祉看護職のための出張講座（出張依頼ごと）

全6回 34名参加（前年4回 76名参加）

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い3回中止

d ホームヘルパーお仕事講座

全2回 27名参加

（中原区開催11月11日：14名 多摩区開催3月18日：13名参加）

(イ) 介護人材確保、定着事業

a 採用担当者向けセミナー 1回 1月20日実施（オンライン）25名参加

b 福祉のお仕事なるほどセミナー ⇒ 中止（福祉のお仕事相談会と同時開催）

c ホームヘルパーお仕事講座 全2回 27名参加

（中原区開催11月11日：14名 多摩区開催3月18日：13名参加）

エ 介護職に係る就労支援事業の実施

福祉施設見学バスツアー（学生向け）⇒中止 ※施設見学動画を制作

オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携

(ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア

（就職相談会・就職ガイダンス）2回

(イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 3回

- (ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携
ハローワーク川崎 求職者向け福祉の仕事説明会 全2回 【新規】
10月23日 24名参加、1月27日 21名参加
- (エ) 川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会人材プロジェクト委員会 6回
人材発掘ワーキング8回
- (オ) 生活困窮者自立支援事業、外国人人材雇用支援事業者等との連携
「だいJOBセンター」(川崎市生活自立・仕事相談センター)との連携
相談、連携体制等打合せ 4回
「川崎市国際介護人材サポートセンター」との連携
事業協力、相談体制打合せ 3回
「川崎市介護人材マッチング・定着支援事業」との連携
事業協力、相談体制打合せ 3回
- (カ) 川崎市こども未来局との連携
養成校における保育のお仕事相談会への協力及び広報啓発 4回
 - ・ 田園調布学園大学2回 8月22日 1年生対象 101名参加
10月12日 3年生対象 82名参加 (ウェブ開催)
 - ・ 洗足子ども短期大学2回 11月18日 2年生対象 105名参加
11月25日 2年生対象 90名参加
- (キ) 学校訪問及び学内就職ガイダンスへの協力
 - a 学校訪問 ⇒中止 電話、メールでの状況聞き取り調査を実施
 - b 学内就職ガイダンスへの協力 1回 日本女子大学 19名参加 (ウェブ開催)
- カ こころの健康相談室『ふおーえむ』の実施及びメンタルヘルス研修の開催
 - (ア) メンタルヘルス相談 (月2回～3回 不定期 月・金曜日) 延べ28件
 - (イ) メンタルヘルス研修会 3回 延べ30名参加
 - (ウ) 広報紙「ふおーえむ・レター」の発行 2回 (第22号、第23号)
- キ 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回 (8月27日、3月16日)
※オンライン又は会場参加
- ク 広報
 - (ア) 求人情報紙の発行 毎月1回発行 求職登録者等延べ 2,040部送付 (年間)
 - (イ) 人材バンク ホームページ・フェイスブック等の運営
 - a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 川崎市福祉人材バンク
ホームページ (<http://www.csw-kawasaki.or.jp/jinzai/index.html>)
 - b 福祉のお仕事 ホームページ (福祉人材情報システム)
(<https://www.fukushi-work.jp/>)
 - c 川崎市福祉人材バンク フェイスブック
 - (ウ) メールによる情報提供、利用案内等の発信 (求職登録者・求人事業者向け送信)
 - (エ) 人材バンクリーフレットの製作・配布
 - (オ) 介護冊子の発行
 - (カ) 川崎市社協広報誌
 - (キ) 川崎市広報協力依頼 川崎市地域ポータルサイト、川崎市公式ツイッター

(3) 生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 21,505千円】

- ア 貸付決定件数（特例貸付を除く） 192件
- イ 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付決定件数 25,059件
- ウ 生活福祉資金貸付事業担当者会議 1回

(4) 福祉サービス利用事業

【サービス区分事業活動支出 64,442千円】

令和2年10月より、要介護者生活支援ヘルパー派遣事業と生活支援型食事サービス事業は、新規利用受付中止。既存利用者のサービスのみ実施

- ア 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の実施及び総合的管理運営
 - 年間派遣利用者数 83名
 - 派遣時間（年延べ数）529時間
- イ ねたきり高齢者等紙おむつ及び日常生活用具給付事業の管理運営
 - 紙おむつ給付等介護用品給付（月平均利用者数） 3,852名
 - 日常生活用具給付（新規給付件数） 延べ12名
- ウ 生活支援型食事サービス事業の総合的管理運営
 - 利用者数（月平均）15名
 - 食数（月平均）288食（年延べ数）3,453食
- エ 緊急通報システム事業の管理運営
 - 自宅設置型サービスの利用者数（月平均） 798名
 - 携帯型サービスの利用者数（月平均） 825名
- オ 高齢者外出支援サービス事業の管理運営
 - 登録者数 460名（令和3年3月現在）
 - 利用件数（年延べ数） 1,551件
 - 事業運営委員会の開催 0回（新型コロナウイルス感染防止のため開催中止）
- カ 重度障害者訪問看護サービス等支援事業の総合的管理運営
 - 派遣世帯数（年延べ数） 121世帯
 - 派遣回数（年延べ数） 402回

12 ボランティア活動振興センター事業【10,741千円】

【サービス区分事業活動支出 10,741千円】

(1) 運営委員会の開催

- ア 運営委員会 2回（11月25日、3月11日※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面審議）

(2) 相談・情報提供事業及び調査・研究

ア ボランティアコーディネーター業務

- (ア) ボランティア活動希望への相談・情報提供 60件 (平成31年度 74件)
- (イ) ボランティア募集の依頼 41件 (平成31年度 116件)
- (ウ) ボランティアによる支援 6件 (平成31年度 17件)

イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供

- (ア) ボランティア体験紹介冊子「ボラ★ナビ2021」の発行 2,500部
(公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行)

ウ ボランティア担当者会議の開催 4回

エ 電話相談実務者研修(3月4日)オンライン開催 参加者46名

(3) 広報・啓発

ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供

(ア) ホームページの管理

- a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ
- b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

(イ) ボランティア関連情報冊子の発行

- a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 89団体
- b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 2,000部

イ ボランティア交流室の貸出 251件

(4) ボランティア育成支援

ア ボランティアコーディネーター研修の開催

- (ア) 「共生社会のつくり方 ～オープンエアメーカー養成講座(障害の理解・啓発のすすめ)～」

(1月29日)参加者10名

イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催

- (ア) 「協働のリーダーシップ 多様なプレイヤーを支え信頼される支援型リーダーとは」(2月6日)参加者17名

- (イ) 「グラフィックレコーディング オンラインで書く初めてのグラレコ」

(3月27日)参加者16名

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育推進会議の開催 4回(7月8日、9月16日、11月18日、2月8日)

イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)

(※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

ウ 川崎市内郵便局新入社員研修への講師協力(2月16日) 参加者31名

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

- ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練（担当区社協との共催）及び職員及び関係機関向け研修会の開催
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- イ 関係団体等とのネットワークの構築、関連会議・研修会等への参加
 - (ア) 麻生区災害ボランティアに関する連絡会議（3月24日）

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関（中間支援組織）との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加

関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。（延べ14回）

13 あんしんセンター事業【134,303千円】

【サービス区分事業活動支出 134,303千円】

(1) 権利擁護にかかわる相談

相談件数 17,216件（初回相談 548件、継続相談 16,668件）
（※平成31年度相談件数 17,421件／初回相談600件、継続相談16,821件）

(2) 日常生活自立支援事業

サービス契約者数（令和2年度末の継続利用者数）

	R2実績	H31実績
書類預かりサービス利用者数（人）	32	32
金銭管理サービス利用者数（人）	488	483

(3) 契約能力判定審査会の運営

- ア ケース検討会議の開催 33回
 - (ア) 新規利用申込件数 合計 111件
 - (イ) 継続利用者の処遇 合計 27件
- イ 契約能力判定審査会の開催 6回（5月21日、7月9日、9月10日、11月12日、1月21日、3月11日）（5月21日、11月12日は書面表決）
 - (ア) 諮問件数 合計 28件
 - (イ) 報告件数 合計 196件

(4) 業務監督審査会の運営

- ア 業務監督審査会の開催 6回（5月21日、7月9日、9月10日、11月12日、1月21日、3月11日）（5月21日、11月12日は書面表決）
 - （ア）諮問件数 合計 1件
 - （イ）報告件数 合計 274件

(5) 専門員及び生活支援員等研修の実施

- ア 生活支援員研修
 - （ア）新任生活支援員研修 1回（4月3日 受講者2名）
 - （イ）生活支援員研修 2回（10月23日、10月27日 受講者延べ57名）
 - （ウ）初任者研修（県社協・横浜市社協・相模原市社協と共催）1回 受講者8名
- イ 専門員研修
 - （ア）新任専門員研修 1回（4月6日 受講者5名）
 - （イ）専門員フォローアップ研修1回（7月27日 受講者4名）
 - （ウ）専門員研修3回（9月29日、11月6日、1月27日 受講者延べ54名）
- ウ 管理職員研修
 - （ア）管理職員研修（県社協・横浜市社協・相模原市社協と共催）1回 受講者18名

(6) 成年後見事業（法人後見）

- ア 相談件数 216件（新規99件、継続117件）
（※平成31年度相談件数 226件／新規79件、継続147件）
- イ 新規受任件数 1件（※平成31年度 8件）
- ウ 令和2年度末の受任継続件数 43件（※平成31年度末 47件）

(7) 関係機関との連絡調整

- ア 成年後見制度連絡会の開催 2回（10月13日、3月19日）

(8) 成年後見制度普及・推進事業

- ア 関係機関向け成年後見制度研修 1回（11月6日） 受講者 85名
- イ 市民向け成年後見制度研修 2回（10月9日、2月27日）受講者 延べ51名
- ウ 成年後見制度シンポジウム※新型コロナ感染拡大防止のため中止

(9) 市民後見人推進機関の運営

- ア 川崎市市民後見人推進委員会 2回（11月9日、）
- イ 受任調整会議 6回（6月9日、7月9日、8月18日、9月10日、11月12日、12月8日）
- ウ 市民後見人フォローアップ研修 2回（7月30日、3月18日）
- エ 市民後見人への活動支援 適宜（電話、メール、来所等による支援）
- オ 市民後見人受任状況
受任依頼 8件、受任 8件、未受任 1件、終了 7件

令和3年3月末現在14名受任中

(10) その他

- ア 権利擁護事業の普及啓発
 - (ア) 川崎市あんしんセンターパンフレットの配布（随時）
 - (イ) 市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣
- イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査
 - かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査
 - (ア) 実施状況調査 ※新型コロナ感染症拡大防止のため書面にて実施
 - (イ) 実施状況ヒアリング 2月5日
- ウ 区あんしんセンター事業実施調査
 - (ア) アンケート調査（12月～1月に実施）
 - (イ) 現地調査 ※新型コロナ感染症拡大防止のため実施せず
- エ 日常生活自立支援事業実施における、区社会福祉協議会への支援
 - (ア) あんしんセンター連絡会議の実施 5回（6月24日、8月17日、10月19日、12月21日、2月15日）
 - (イ) 相談に対する助言
- オ 日常生活自立支援事業実施主体連絡会 7月29日
- カ 法人後見実施社協連絡会（神奈川県内の法人後見実施社協と県社協の情報交換会）
2回（9月1日、2月16日） 計3名参加
- キ 県内中核機関設置連絡会（中核機関設置に向けた県内社協の情報交換）に参加
1回（3月26日） 計2名参加

14 地域生活支援SOSかわさき事業【274千円】

【サービス区分事業活動支出 274千円】

	R2実績	H31実績
参加法人	30法人	30法人
連携ネットワーク会議	1回	1回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

- ア 担当者会議の開催（3月29日）
- イ 相談対応

(2) 会員間が情報共有できる仕組みづくり

- ア メールニュースの配信 2回
- イ 会員間における地域における公益的な情報共有ツールとしたグループウェアの運営

(3) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

グループウェアを通じて、公益的取組に関わる情報を随時発信

(4) 食糧支援かわさきの実施

- ア 食糧支援かわさき実績（令和3年3月31日現在）
 - 食糧の提供（企業・施設・市民等） 約11,000品
 - 配布実績 約800世帯
 - 食糧保管拠点 10カ所
- イ 食糧支援かわさき＋学生エールの実施（令和2年12月19日）
 - 食糧の提供 6,044品
 - 配布実績 176名

(5) 川崎区の子どもの食糧支援への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 高齢センター管理経営事業【128,640千円】

【サービス区分事業活動支出 128,016千円】

【サービス区分施設設備等支出 624千円】

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、川崎市担当課との協議に基づき、4月から7月開催予定の講座・研修を中止とした。実施研修においては、研修会場利用定員の半数以下で実施した。

(1) 人材養成研修・人材開発研修センター事業

- ア 介護職員実務者研修（全社協中央福祉学院との共催）
 - スクーリング 修了者 15名
- イ 介護職員初任者研修 ※中止
- ウ 福祉職員向け現任研修 年29講座 受講者延べ 727名 ※11講座中止
- エ 介護福祉士国家試験直前対策講座 1コース 受講者 14名
- オ 認知症介護に関する研修
（基礎研修8コース、実践者研修3コース、リーダー研修1コース）
※基礎研修4コース中止、実践者研修1コース中止 修了者126名
- カ 重度訪問介護従業者養成研修 修了者 12名
- キ 介護支援専門員専門研修課程Ⅰ・更新研修Ⅰ等 1コース 修了者 52名
介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修Ⅱ等 2コース 修了者 110名
- ク 相談支援従事者に関する研修（初任者研修、現任研修、養成研修）
3コース 修了者 292名
- ケ 地域包括支援センター職員向け研修（新任職員研修3会場、現任研修3会場）
2コース 分散開催 受講者 328名
- コ 強度行動障害支援者養成研修（2コース） 修了者 39名 ※1コース中止
- サ その他指定管理事業の中で必要な研修の実施
 - （ア）福祉用具講座（7月15日） ※中止
 - （イ）4社協（神奈川県、横浜市、相模原市、川崎市）共催トップセミナー ※中止

(2) 介護普及啓発事業・保健福祉研究センター事業

- ア 福祉情報ミニ講座 全講座中止
- イ 家庭介護教室（5教室） 2教室 参加者26名 ※3教室中止
- ウ 認知症キャラバン・メイト事業の実施（認知症サポーター養成講座開催支援等）
 - (ア) 認知症キャラバン・メイト養成研修 1回（12月24日） 受講者 58名
 - (イ) 川崎市認知症キャラバン・メイト連絡協議会 総会（11月19日）
参加者 73名
 - (ウ) 認知症キャラバン・メイトフォローアップ研修 3月9日
2コース同日開催 35名
 - (エ) 認知症サポーター養成研修（介護いきいきフェアにおいて実施）※中止
 - (オ) 認知症サポーター養成講座開催支援 51件 受講者延べ 1,795名
 - (カ) 認知症キャラバン・メイト連絡協議会運営委員会 5回
- エ 地域講座 全2回 受講者延べ 22名 ※1講座中止
- オ 介護いきいきフェア ※イベントは中止
 - (ア) 「介護の困った！こんな時は…どこに相談すればいいの？どんなサービスが使えるの？」 啓発用リーフレット作成 15,000部
 - (イ) 企画委員会・実行委員会（同日開催）企画委員会6回 実行委員会4回
- カ 福祉用具の展示及び講座の実施
 - (ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 95品目
 - (イ) 展示見学 89組
 - (ウ) 福祉機器相談件数 24件
 - (エ) 福祉用具講座の実施 1回（7月15日）※中止
- キ 福祉関係図書・DVD・福祉啓発教材・視聴覚機材貸出事業の実施
 - (ア) 図書及び資料等所有数
 - a 図書 3,326冊
 - b DVD・ビデオ 620本
 - (イ) 貸出件数
 - a 図書 71冊
 - b DVD・ビデオ 26本
 - (ウ) 社会福祉関係視聴覚機材等所有数14 利用者数8

16 居宅介護等事業【819,278千円】

【サービス区分事業活動支出 807,469千円】

【サービス区分施設設備等支出 11,809千円】

(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数 延べ12,479人/年

サービス提供時間 107,323時間/年

（平成31年度 106,327時間/年）

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数 延べ3, 220人/年
サービス提供時間 33, 453時間/年
(平成31年度 42, 503時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ11, 556件/年
(平成31年度 11, 430件/年)

(4) 自由契約事業（おたっしゅサポート）の実施

利用者数 延べ1, 265人/年
サービス提供時間 2, 864時間/年
(平成31年度 3, 821時間/年)

(5) 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の受託実施

利用者数 延べ25人/年
サービス提供時間 144時間/年
(平成31年度 199時間/年)

(6) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内27館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(7) 各種研修の実施

- ア 主任ヘルパー研修 1回
※他3回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- イ 介護支援専門員研修 1回
※他3回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ウ 介護支援部主催研修 1回（3月16日、3月17日 同内容）
- エ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）
- オ かわさき暮らしサポーター養成研修 1回（11月13日）
※他3回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- カ ホームヘルパー普及啓発活動 市内のホームヘルパーの確保を図るため、福祉人材バンクと連携し、「ホームヘルパーのお仕事講座」を実施し、ホームヘルパーの魅力等を伝える啓発活動を行った。 2回（11月11日、3月18日）

17 老人いこいの家管理経営事業【207, 871千円】

【サービス区分事業活動支出 207, 871千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。
(市内48箇所)

(1) 年間利用者数 214, 207名

(2) 会議

- ア 老人いこいの家調整担当者会議 1回
- イ 老人いこいの家指定管理者会議 1回
- ウ 老人福祉センター・老人いこいの家連絡会議 2回

18 老人福祉センター管理経営事業【155, 122千円】

【サービス区分事業活動支出 155, 122千円】

「老人福祉(・地域交流)センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。(市内7箇所)

(1) 年間利用者数 111, 245名

(2) 所長会・担当者会議 14回

19 公益事業

(1) 川崎市総合福祉センター事業

【サービス区分事業活動支出 183, 885千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

(ア) ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室の提供

a 年間利用件数 2, 047件

(平成31年度 3, 940件)

b 利用人数 143, 529名

(平成31年度 394, 268名)

イ 地域福祉情報バンク事業

(ア) 総合相談事業(ふくし相談・専門相談)

a ふくし相談事業 544件 (平成31年度 525件)

b 情報バンク 303件 (平成31年度 322件)

c 専門相談 72件 (平成31年度 79件)

(イ) 地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信

(かわさき福祉情報サイトふくみみ)

a ボランティア・市民活動団体実態調査 467団体を対象に実施

- b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
 - c 地域福祉情報バンク通信の発行 年4回 春号、夏号 各6, 000部、
秋号 6, 500部、冬号 7, 000部 発行
 - d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
 - e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出
 - f ふくみみパンフレット配布 318部
 - g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と区社協窓口等配布
 - h YouTube「川崎市社会福祉協議会 地域福祉情報バンクふくみみ」の配信
- (ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用

- a 図書貸出 930件
- b DVD貸出 199件
- c 車いす貸出 1件(4台)
- d 高齢者疑似体験セット貸出 6件(16セット)
- e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 1件(5セット)
- f 視聴覚障害者体験セット貸出 2件(8セット)
- g ボッチャボールセット 3件(4セット)

	R2実績	H31実績
新規貸出登録者数(人)	54	91
図書・DVD貸出件数(件)	1,129	954

ウ 社会福祉関係従事者及び地域福祉活動に取り組む市民・ボランティア等を対象にした
研修事業

- (ア) 地域福祉コーディネーター技術研修5コース実施 受講者延べ108名
- (イ) 社会福祉施設等職員研修6コース実施 受講者延べ120名 (視聴138回)
- (ウ) 地域福祉関係研修6コース実施 受講者延べ132名

	R2実績	H31実績
研修件数(件)	26	18
受講者数(人)	498	440

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業

【サービス区分事業活動支出 2, 504, 568千円】

- ア 販売実績 延べ135, 981件
 - (ア) 川崎区 56件
 - (イ) 幸区 4, 334件
 - (ウ) 中原区 707件
 - (エ) 高津区 652件
 - (オ) 宮前区 3, 398件
 - (カ) 多摩区 3, 459件
 - (キ) 麻生区 667件

	R2実績	H31実績
年間延べ交付枚数（枚）	135,981	167,027

イ 事業者会議 1回（3月24日）

(3) 地域包括支援センター事業（大師中央・溝口・登戸）【134,793千円】

【サービス区分事業活動支出 127,552千円】

【サービス区分施設設備等支出 7,241千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

(ア) 大師中央 2,419件

(イ) 溝口 1,675件

(ウ) 登戸 1,824件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

(ア) 大師中央 96件

(イ) 溝口 38件

(ウ) 登戸 66件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

(ア) 大師中央 1回（3月17日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催）

(イ) 溝口 2回（2月18日、3月3日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催）※一部、樹の丘地域包括支援センターと共催

(ウ) 登戸 2回（1月12日、2月15日 新型コロナ感染症拡大防止のため書面開催）

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

(ア) 大師中央 1,872件（外部委託分 770件含む）

(イ) 溝口 2,205件（外部委託分 950件含む）

(ウ) 登戸 3,031件（外部委託分 1,404件含む）

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

(ア) 大師中央 1,104件

(イ) 溝口 613件

(ウ) 登戸 913件

(4) 川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 34,375千円】

ア 修学資金	貸付人数	41名	貸付決定額	33,000,000円
イ 入学準備金	貸付人数	12名	貸付金額	2,400,000円
ウ 就職準備金	貸付人数	47名	貸付金額	8,000,000円
エ 生活費加算	貸付人数	0名	貸付金額	0円

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 8,600千円】

ア	入学準備金	貸付人数	8名	貸付金額	4,000,000円
イ	就職準備金	貸付人数	14名	貸付金額	2,800,000円

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【495,330千円】

【共同募金配分金 495,330千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

ア	寄付額	0円
イ	支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費）	0円
ウ	令和2年度末残高	33,490,779円
	（平成31年度末残高	33,490,779円）

(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（80名×3日分以上）

(4) 災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

(5) 平時からの災害対応として、部署を横断した「災害対応チーム」による発災時の職員配置などの体制づくり

- ア 災害対応チームの開催 2回（9月9日、12月24日）
- イ 災害時の情報伝達訓練の開催 1回（3月11日）

2 2 その他

(1) 児童福祉施設訪問事業の実施

ア 児童福祉週間（5月5日～11日）

（ア）ポスターの掲示 川崎市総合福祉センター及び各区福祉パル

イ 児童福祉施設訪問

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

プレゼントとメッセージカードを送付

(2) 高齢者福祉施設訪問事業の実施

ア 高齢者施設訪問

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

プレゼントとメッセージカードを送付

(3) #Share Smile かわさき 心のキョリは離れない～今できること～

新型コロナウイルス感染症の影響による地域住民や関係機関・団体から寄せられた困りごとや支援をしたいという声をつなぐための取組を実施

ア とどけよう！かわさき マスク（とどけマス）

家庭にある使う予定のないマスクを募集し、必要とする福祉施設等へお渡し

回収枚数 40, 209枚

配布枚数 32, 791枚（152施設に配布）

イ 食料支援かわさき【再掲】 ⇒14-（4）ア

ウ 食糧支援かわさき+学生エール【再掲】 ⇒14-（4）イ

エ オリジナルステッカー配布

オ オリジナル缶バッジによる寄付募集 896個 寄付金133, 142円

川崎市川崎区社会福祉協議会

令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地区社協活動の支援・援助

地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。新型コロナウイルスの影響で中止となる事業が多かったですが、高齢者のサロンや子ども食堂、見守り活動などの事業が実施されました。

2 福祉教育の普及と協力

学校等からの相談については学習内容を含めた支援に取り組むことに努め、講師紹介・情報提供の他、車いすや高齢者疑似体験セット等の福祉用具の貸出しに関する相談を26件受け付けました。今年度は、コロナ禍で実施するにあたり、施設や企業等と連携し、オンラインでの取り組みを行いました。また、川崎区企業市民交流事業推進委員会主催の「川崎区企業市民による中学校出前授業」に協力し、区内の中学校4校の2年生を対象として「働くとはどういうことか」について話しました。

3 総合相談支援事業（福祉なんでも相談）

第4期地域福祉活動計画の重点事業である総合相談支援事業を「福祉なんでも相談」と位置づけ、相談の種別、内容に関わらず、あらゆる生活課題・福祉課題に向き合い、区民一人一人に寄り添った支援が行えるよう相談事業に取り組みました。

住宅相談や生活相談等、年間を通じて20件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等支援を行いました。

中でも、コロナ禍において、市内の小中学校が休校となったことを機に、十分な食事をとることが出来ない子どものいる家庭に対し、行政等の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、子どもの食糧支援を行いました。

4 広報啓発事業

地域の福祉情報の発信を充実させるための広報紙「ウェーブ」を、川崎区連合町内会の協力により全戸配布すると共に、関係機関、団体への配布など、年2回（5月、10月）発行し、区民への福祉情報発信に努めました。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、5月号は84,000部発行しましたが、9月号・1月号については発行を中止し、10月に特別号として4,000部発行しました。

令和2年4月に本会ホームページをリニューアルし、スマートフォンやタブレットなどの端末からも見やすいシステムに変更しました。福祉パルの開館情報や生活福祉資金特例貸付の情報を中心に、必要な情報を迅速に提供できるよう努めました。

新型コロナウイルスの影響で不特定多数の方が来場する福祉まつりは中止となりましたが、

令和2年11月21日（土）川崎市教育文化会館6階において川崎市社会福祉大会を開催しました。各地区からの参加人数を制限して開催し、80名の参加で、17名・団体に表彰・感謝状を授与しました。

5 災害支援の取組み

新型コロナウイルスの影響で、川崎区の総合防災訓練が中止・縮小開催となり参加することができませんでした。

令和3年度の子ども向けの講座開催に向けて、被災者の写真洗浄を川崎市内で実施している団体と打合せを実施しました。

事業報告の内容

川崎市社会福祉協議会 事業費【66,550,632円】

【内、共同募金配分金 14,418,029円】

1 川崎市社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（5月※書面にて決議、9月27日、3月※書面にて決議）
- イ 運営協議会の開催 2回（5月※書面にて決議、3月※書面にて決議）

(2) 令和2年度会員及び賛助会員数

	R2実績	H31実績
会員数	133	140
賛助会員数	2,829	4,361

(3) 種別会議

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 1,562,833円

2 調査・研究事業

(1) 第5期地域福祉活動計画の策定

- ア 常任委員会にて確認（9月27日、3月※書面にて決議）
- イ 運営協議会にて確認（3月※書面にて決議）
- ウ 会員に素案を送付（2月※書面にて決議）

(2) 福祉ニーズ調査・検討

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

4 企画・広報事業

(1) 令和2年度川崎市社会福祉大会の開催

11月21日 参加者80名

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

ア 広報紙「ウェーブ」年2回

108号(84,000部)、特別号(4,000部)発行

イ リーフレット 2,000部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

川崎市社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)

※令和2年4月にリニューアルを実施

5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 保育物品の貸出

保育物品の貸出 35件

(3) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネット貸出し 15団体

(4) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 89件

(5) 福祉用具の再利用

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

区内地区社協への助成 計8,471,400円

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和2年度は申請なし

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア 会食活動に助成 34団体

計3,330,248円(区社協助成分含む)

イ 配食活動に助成 2団体

計303,000円(区社協助成分含む)

ウ ミニデイサービス活動に助成 4団体

計886,000円(区社協助成分含む)

- エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催
※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

7 連絡・調整事業

- (1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催
地区社協会長連絡会 2回（7月13日、3月16日）
- (2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

8 共同募金事業

- (1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業
年末支援金配布 446世帯・計2,230,000円
- (2) 障がい者福祉啓発事業（障がい者福祉に関する講座の開催）
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止
- (3) 子育て支援事業
子育てグループに助成金配布 13団体 計315,000円
- (4) ボランティア・当事者団体への活動助成
ボランティア・当事者団体へ助成金配布 27団体 計1,480,725円
- (5) 総合相談支援事業
新型コロナウイルスの影響によりコロナ禍において、市内の小中学校が休校となったことを機に、十分な食事をとることの出来ない子どものいる家庭に対し、行政等の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、子どもの食糧支援を行いました。また、地域で行われているフードパントリーの活動に協力しました。
支援世帯数 62世帯

9 福祉パル管理運営事業

- (1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し
研修室 124件、ボランティアコーナー 15件
- (2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し
印刷機 68件、コピー機36件
- (3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数	58件
イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）決定件数	6,011件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 1回（8月25日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	30件（平成31年度 76件）
イ ボランティア募集の依頼	12件（平成31年度 91件）

(3) ボランティア情報誌「いっぽ」の発行等、広報活動の実施

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 各種講座・セミナーの開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談	8件
--------------	----

12 日常生活自立支援事業

(1) 日常生活自立支援事業および成年後見制度など、高齢者や障害者の権利擁護に関わる相談

相談件数 2,909件（初回相談79件、継続相談2,830件）

（※平成31年度相談件数 2,688件／初回相談104件、継続相談2,584件）

13 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 夜間・休日等施設開放事業

利用人数 計233人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計43,311人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 9回(6・7月※書面開催)

イ 運営委員長会議 1回(3月16日)

1.4 川崎市かわさき老人福祉・地域交流センター事業

「老人福祉(・地域交流)センター」の指定管理運営事業について、市社協と協働して適正な管理運営を実施した。

(1) 年間利用者数 20,376名

1.5 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業(高齢者フリーパス交付)の実施

販売実績 延べ56件

1.6 災害活動関連事業

災害ボランティアセンター設置運営訓練は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

1.7 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

募金実績 21,249,479円 達成率 68.1%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1.8 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援SOSかわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、コロナ禍において生活に困窮されている方に対し、食糧支援を行いました。

川崎市幸区社会福祉協議会 令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 「第4期幸区地域福祉活動計画」に沿った事業の実施

平成30年度から3年間の計画期間の最終年度の取り組みとなりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止した事業がありました。3年間の事業実施を振り返り、検証して第5期幸区地域福祉活動計画の策定作業を行いました。

2 住民交流活動拠点の円滑な運営

区内3か所で展開している「陽だまり」の運営を行いました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により4月から6月にかけて休所していましたが、1回目の緊急事態宣言解除後に運営委員と協議し連携を密にして感染防止のルールを定めたうえで開所しました。

3 地域拠点における相談体制の充実

老人いこいの家や陽だまり等、住民の方が利用する地域拠点において、身近な相談窓口となるよう、利用者から聞き取った内容で気になることがある時は、関係機関につなげるなどの対応を心掛けました。

4 地区社会福祉協議会と連携した地域課題解決の仕組みづくり

地区社会福祉協議会は、住民に一番近いところで活動しており、住民の福祉ニーズをいち早く把握することができます。地区社会福祉協議会の定例会等で地域の福祉課題を共有し、解決に向けた取り組みにつなげていけるよう努めました。

5 自主財源確保と啓発強化

広報紙による寄附の呼びかけを行いました。社協活動の啓発については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、社会福祉大会やプラザまつりが中止となり十分な啓発活動とはなりませんでしたが、さいわい健康福祉プラザ内に作品や活動紹介を展示し、広報啓発に努めました。

事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【51,208千円】

【サービス区分事業活動支出 37,765千円】

【共同募金配分金 13,443千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（5月28日※書面決議、9月3日、2月19日）

イ 運営協議会の開催 1回（2月9日※書面開催）

(2) 会員や賛助会員の増強 令和2年度入会会員

ア 正会員 0

イ 賛助会員 4,261

	R2実績	R1実績
正会員数	94	102
賛助会員数	4,261	5,447

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ（寄附金 延10件 188,025円／寄附品 延3件）

(4) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

将来の福祉現場を担う人材養成に協力

実習開始	実習終了	日数	人数	学校名等	実習目的
9/3	10/15	24	1	日本社会事業大学 社会福祉学部3年	社会福祉士 相談援助実習

2 調査・研究事業

(1) 第5期地域福祉活動計画の策定

常任委員会で協議 3回（5月28日、9月3日、2月19日）

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

ア 常任委員会を対象とした研修会の開催 1回（3月3日）

4 企画・広報事業

(1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止。区社協会長表彰・感謝は実施し、受賞者に対して地区社協会長及び区社協事務局長から表彰状を授与。

(2) 充実した福祉情報を発信するための機関紙「幸区の社会福祉」の発行

ア 機関紙「幸区の社会福祉」 年3回、各25,000部発行 ※令和2年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により年3回の発行。回覧または全戸配付。

(3) 情報紙「幸区社協通信」の発行

ア 情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行

(4) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社協との連携

地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。

(2) 子育て支援事業や会食会等への支援

地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。

(3) 地区社協連絡会議の開催

地区社協会長連絡会 2回（7月7日、12月15日）

(4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営

小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。

(5) 総合相談事業の体制整備

老人いこいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。

(6) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握

年間総相談件数 1,332件

(7) 移送サービス事業の実施

登録会員 7名 年間利用件数 67件 登録ボランティア20名

(8) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 79件

(9) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

ア 小学校への貸し出し 5校

イ その他地域団体への貸し出し 1件

(10) 福祉用具のリサイクル

ア 譲りたい要望 4件

イ 譲ってほしい要望 0件

ウ 譲渡成立件数 2件

(11) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し冊子作成に協力

(12) 子育て支援に関する啓発

ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供

イ 幸区子ども総合支援ネットワーク会議に参画し子ども情報ネットさいわいの編集、発行に協力(40号、41号、42号を発行)

(13) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

ア 部会出席 5回(6月30日、8月4日、9月2日、9月29日、12月8日)

イ みんなで子育てフェアさいわい スタンプラリー実施(10月10日から11月24日)
※福祉パル、陽だまり3か所がスタンプポイントとして参加、団体紹介ポスター掲示

(14) プラザ祭りの開催(幸区民祭と同日開催)

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止。共催団体の作品や活動紹介を展示。

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計4,968,704円

(2) 共同募金を原資とした助成

会食・配食・ミニデイ実施団体助成 1団体 計80,000円

子育て支援事業実施団体助成 7団体 計350,000円

当事者団体活動助成 2団体 140,000円
ボランティアグループ活動助成 10団体 355,000円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計160,000円

(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
リレーカーニバル ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
幸区民祭協賛 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

(5) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア	会食活動に助成	22団体	計	1,174,000円
イ	配食活動に助成	1団体	計	255,000円
ウ	ミニデイサービス活動に助成	3団体	計	277,000円

7 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金品配分事業

年末慰問金配布 368世帯・計1,840,000円
年末慰問品配布(お茶) 2,600世帯・計1,769,040円

8 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 164件、ボランティアコーナー 133件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア	区内貸付決定件数	15件
イ	区内特例貸付決定件数	1,993件

10 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回（7月2日、1月13日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	25件	（令和元年度 36件）
イ ボランティア募集の依頼	16件	（令和元年度 43件）
ウ ボランティアによる支援	11件	（令和元年度 37件）

(3) 各種講座・セミナーの開催

ア ボランティア講座の開催

（ア） チャレボラ2020（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止）

（イ） 『声』のボランティア、はじめてみませんか（2月24日）参加者11名

イ ボランティア活動パワーアップセミナーの開催

（ア）移送ボランティアフォローアップ研修（1月29日、2月1日 ※同一内容）

参加者13名

（イ）移送ボランティア交流会（1月29日、2月1日）参加者12名

（ウ）ボランティア交流会 [オンライン勉強会]（3月3日）参加者49名

(4) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 8件

11 川崎市あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業および成年後見制度など、高齢者や障害者の権利擁護に関わる相談

相談件数 1,584件（初回相談 65件、継続相談 1,519件）

（※令和元年度相談件数 1,385件/初回相談 86件、継続相談 1,299件）

(2) サービスの利用

日常的金銭管理サービス利用者数 50名

書類等預かりサービス利用者数 11名

12 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家の管理運営

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの設置。避難訓練を各施設年2回実施。

教養講座 11講座 年113回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 246回

老人いこいの家まつりの開催 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、まつりは中止。代替として作品展を開催（多世代・地域交流事業と同時開催）。

多世代・地域交流事業の実施 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、対面での交流事業は行わず、老人いこいの家利用者の作品とこども文化センターやわくわくプラザ、近隣保育園や小学校のこども達の作品を一緒に展示する作品展を開催（老人いこいの家まつり代替事業と同時開催）。

老人いこいの家運営委員会の開催 10回（7月22日、8月25日、9月16日、9月28日（2か所開催）、10月7日、11月18日、11月26日、12月8日、3月4日）

1.3 老人福祉センター（さいわい健康福祉プラザ）運営事業

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について、市社協と協働して適正な管理運営を実施。

（1）さいわい健康福祉プラザ（老人福祉センター）の運営

年間利用者数 7,820名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施

生活相談 随時対応（看護師による健康相談・血圧測定実施）

講座 9講座実施

行事 ボッチャ体験会、踊ろう会の実施。プラザ祭りの中止により、代替としてプラザ祭り共催団体合同の作品展、活動紹介展示を実施

1.4 公益事業

（1）高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ4,334件

1.5 災害活動関連事業

（1）災害時におけるボランティアセンターの役割について検討

16 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募基金会幸区支会への協力

募金実績 一般募金 12,953,081円 達成率 81.2%

年末たすけあい募金 8,474,513円 達成率 78.5%

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。

川崎市中原区社会福祉協議会

令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動の推進

地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援しました。また、子育て中の親を対象に講座等を開催し、わが子を前に感じる悩みや不安に対して、子どもと共に親として成長していくきっかけになるような取り組みを行いました。

地域福祉活動拠点における新たな取り組みについては、新型コロナウイルスの影響で検討するまでには至りませんでした。

2 ボランティア活動の推進

ボランティアセンター運営委員会を年3回開催し、ボランティア団体の育成や強化の一環として講座や研修等の企画を計画しましたが、新型コロナの影響により中止となりました。

ボランティア銀行では、感染対策用品の購入等に対し、一部助成を行うことで、地域福祉活動の支援を行いました。

また、広報については、ボランティア情報誌「ポポラーレ」を年4回（1,400部）発行し、福祉教育事業の紹介やNECの社員による「玉川プロボノ倶楽部」の紹介、川崎市社協が取り組む地域生活支援SOSかわさき事業「食料支援かわさき」の募集を掲載することで、ボランティアセンターの機能と充実に向けた取り組みを行いました。

3 広報啓発活動、組織体制の強化

正副会長会議や常任委員会、各委員会を開催し、適切な組織運営やネットワークの強化に努めると共に、多様な相談に対応するための体制づくりの検討を行いました。また、第4期地域福祉活動計画（令和3年度～令和5年度）を策定し、「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなで作る」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉を実現するために、地域住民に実践的な取り組みを示し、積極的な参画を促すことで、地域福祉の推進に努めました。

地域の福祉情報や社協事業の紹介、ボランティア情報等、広く住民に発信するための広報紙「社協なかはら」を年3回（88,000部）発行すると共に、なかはら編集委員会を開催し、福祉サービスの情報の充実に向け積極的に取り組みました。

多くの人が集まる事業については、本会、正副会長会議や各種委員会において、開催に向け検討をしましたが、感染拡大防止のため、中止や縮小を余儀なくされる結果となりました。

事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【71,795,054円】

【サービス区分事業活動支出 56,360,897円】

【内、共同募金配分金 15,434,187円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 4回（5月※書面にて決議、6月※書面にて決議、9月25日、2月※書面にて決議）
- イ 運営協議会の開催 1回（2月※書面にて決議、）
- ウ 正副会長会議の開催 3回（5月28日、11月10日、2月16日）

(2) 令和2年度会員及び賛助会員数

	R2実績	H31実績
会員数	114	112
賛助会員数	1767	1845

(3) 種別会議

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 264,424円

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の策定

- ア 常任委員会にて確認（2月※書面にて決議）
- イ 運営協議会にて確認（2月※書面にて決議）

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

4 企画・広報事業

(1) 第24回なかはら福祉健康まつりの開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「社協なかはら」の発行

ア 広報紙「社協なかはら」年3回

118号(88,000部)、119号(88,000部)発行

120号(88,000部)

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

中原区社会福祉協議会 ホームページ (www.nakaharaku-shakyo.jp)

5 地域福祉活動事業

(1) 福祉関係交流集会(第24回なかはら健康福祉まつり)

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 保有物品の貸出

高齢者疑似体験グッズ等 10件

(3) 障害者(児)リフレッシュ事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネット貸出し 18団体

(5) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 119件

(6) 福祉用具の再利用

ア 譲りたい要望 27件

イ 譲ってほしい要望 18件

ウ 譲渡成立件数 12件

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会等への助成

区内地区社協、地区民協	8団体	計	1,478,230円
-------------	-----	---	------------

福祉活動	11団体	計	196,320円
------	------	---	----------

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和2年度は申請なし

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア	会食活動に助成	6団体	計	1,775,000円
イ	配食活動に助成	1団体	計	215,000円
ウ	ミニデイサービス活動に助成	1団体	計	206,000円
エ	高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催			
	※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止			

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

地区社協会長・地区民協会長会議 1回（7月20日）

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」を毎月発行。

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末支援金配布 724世帯・計 3,620,000円

(2) 障がい者福祉啓発事業（障がい者福祉に関する講座の開催）

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(3) 子育て支援事業

ア	子育てグループに助成金配布	11団体	計	276,000円
イ	講座「～子育て・親育ち～こころの子育て講座」の開催			

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

14団体 計 411,667円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 156件、ボランティアコーナー 35件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

- ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数 4件
- イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）申請件数 3,147件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（※6月書面開催、11月17日、※2月書面開催）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

- ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 21件（平成31年度 19件）
- イ ボランティア募集の依頼 11件（平成31年度 35件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

- ア 情報誌「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）
- イ 広報活動 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 各種講座・セミナーの開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 13件

12 日常生活自立支援事業

(1) 日常生活自立支援事業および成年後見制度など、高齢者や障害者の権利擁護に関わる相談

相談件数 1,933件（初回相談67件、継続相談1,866件）

（※平成31年度相談件数 1,696件／初回相談59件、継続相談1,637件）

13 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 22名 ・ ボランティア 28名

(2) 夜間・休日等施設開放事業

利用人数 計228人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計23,967人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 14回(6・2月※書面開催)

1.4 川崎市中原老人福祉センター事業

「老人福祉センター」の指定管理運営事業について、市社協と協働して適正な管理運営を実施した。

(1) 年間利用者数 13,839名

1.5 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業(高齢者フリーパス交付)の実施

販売実績 延べ707件

1.6 災害活動関連事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

1.7 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

募金実績 23,798,025円 達成率 75.5%

(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1.8 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援SOSかわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、コロナ禍において生活に困窮されている方に対し、食糧支援を行いました。

川崎市高津区社会福祉協議会

令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 健康づくり・いきがづくり「おたっしや10のトライ」推進事業の推進

(1)「おたっしや10のトライ」「健康の日」の推進

「おたっしや10のトライ」推進事業のオリジナルテーマ曲、オリジナル体操、マスコットキャラクター「テントラちゃん」を活用して区民への健康増進の意識啓発に努めました。

また、本会で制定した「健康の日」などを通じて、老人いこいの家を中心に健康体操を実施して健康づくりに取り組みました。

(2)「おたっしやでつながる地域の輪」の推進

地域づくりの手引き「おたっしやでつながる地域の輪」を周知して支援に努め、各地区の特性を活かした取組みを進めるための地域福祉懇談会の開催を計画し、橘地区社会福祉協議会の地域での開催を予定しました。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

2 活動・交流の場づくりや機会づくり

各地区の小地域福祉活動がより一層盛んに行なわれるよう、地域の居場所づくりや、そこを拠点とした住民主体の取組み（溝口地区の高齢者サロン「たかつの縁側」、下作延地区の「子育てサロンinしもさくのべ」の立ち上げ等）を支援しました。

福祉パルたかつ、老人いこいの家、高津老人福祉・地域交流センターの区民の憩いや交流・活動の場としての充実に努めました。

老人いこいの家及び高津老人福祉・地域交流センターについては、多世代交流・地域交流・介護予防等を推進し、地域拠点としての機能の発展やさらなる利用促進を目指して、地域と連携した取組みを進めました。

3 地域福祉活動の活性化・参加の促進

地区社会福祉協議会を支援し、住民主体の活動の活性化、参加の促進に努めました。

高津区ボランティアセンター事業を通じて、ボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽に地域活動に参加できる環境や機会づくりの支援に努めました。

福祉学習にかかわる相談への対応をはじめ学習機会の提供や情報の発信等を通じて、教育機関や関係機関・団体等と連携し、学校や地域における福祉教育の推進に努めました。

4 災害時の支援体制の充実

災害ボランティアセンターの周知及び研修の実施を通して、災害時におけるボランティア活動の意識啓発、実践活動の推進に努めました。

5 行政との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターをはじめとする行政機関と連携・協働し、地域包括ケアシステムの構築・推進に向けた区民一人ひとりの自助・互助活動が促進されるように取組みに努めました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【59,504千円】

【サービス区分事業活動支出 50,227千円】

【共同募金配分金 9,277千円】

1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 2回（9月23日、2月17日※書面表決）

イ 運営協議会の開催 2回（9月25日、2月24日※書面表決）

※2月17日、2月24日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 地区社協・地区民児協会会長会議

ア 地区社協会長会議の開催4回（4月15日、5月29日、7月17日、1月18日）

イ 地区社協・地区民児協会会長会議の開催 1回（3月11日）

(3) 会員や賛助会員の増強 令和2年度入会会員

ア 正会員 1件（第10種 1団体）

イ 賛助会員 2,545件

	R2 実績	H31 実績
正会員数	112	117
賛助会員数	2,545	2,708

(4) 寄付金の受入れ活用

ア 寄託金 14件

イ 寄託品 8件

	R2 実績	H31 実績
寄託金（件）	14	23
寄託金（円）	1,306,349	3,140,822
寄託品（件）	8	14

2 調査・研究事業

(1) 第4期高津区地域福祉活動計画の推進

平成30年度～令和5年度の6年計画の中間年にあたり、事業の進捗状況等を確認して中間見直しを行った。常任委員会・運営協議会で見直し案を検討した。

(2) 地域包括ケアシステムや地域福祉推進の調査・研究

特に実施していない。

3 研修事業

(1) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

- ア 区・地区社協研修実施委員会の開催 1回（12月14日）
- イ 区・地区社会福祉協議会研修会の開催 1回（3月11日）
※3月11日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期

4 企画・広報事業

(1) 広報紙「おあしす」（年2回発行、編集委員会の開催）・情報紙「トピックス」（毎月発行）・パンフレット等の発行

- ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 6回（6月23日、7月16日、8月18日、12月1日、1月14日、1月27日）
- イ 情報紙「トピックス」年12回、各450部発行
- ウ 「区社協リーフレット」、「おたっしや10（健康十訓）」チラシ、地域づくりの手引き「おたっしやでつながる地域の輪」 配架及び配布

(2) ホームページの運用

- ア ホームページでの情報発信
高津区社会福祉協議会 ホームページ (<https://takatsuku-shakyo.jp/>)

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭・橘ふるさと祭り等への参加

各行事に参加して区社協・地区社協の事業・活動のPR等を予定した。

- ア 第31回たかつ区健康福祉まつりへの参加 7月11日
- イ 第47回高津区民祭への参加 7月19日
- ウ 第41回橘ふるさと祭りへの参加 8月2日
※各行事（祭り）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

共同募金配分金を財源として高津区内の4地区社協へ活動費を助成した。

また、地区社協が地域の障がい児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動に対し、情報提供や事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 「おたっしや10のトライ」推進事業の推進（健康運動の推進、健康運動普及推進チーム「チームテントラ」会議の開催）

高津区の健康運動「おたっしや10のトライ」を組織的に推進するために、地区社協、ボランティアグループ等で構成するチームを設置し、地域の中で具体的にできる活動について協議し、高津みんながつながる音楽会の開催やテントラ音頭の制作などについて検討した。

健康運動普及推進チーム「チームテントラ」会議の開催 4回（7月13日、11月11日、

2月8日、3月8日) ※2月8日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) 「おたっしやでつながる地域の輪」推進事業の実施（地域福祉懇談会の開催、高津みんながつながる音楽会の開催）

地域で生活する住民同士が意見交換を行う中で、地域における課題の把握や解決策を話し合い、各々の地域活動につなげていく話し合いの場として、橘地区社協の地域で地域福祉懇談会の開催を予定した。また、第3回高津みんながつながる音楽会の開催について検討した。

※地域福祉懇談会及び音楽会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(4) 音楽カフェ等の開催（市内学校・橘地区社協との協力実施）

地域の高齢者と多世代の交流促進を目的に音楽カフェ等の開催を予定した。今後、有効な取り組みの方法を検討して行くこととした。

※音楽カフェは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(5) 高津区敬老会の開催（祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催）

式典は中止し、高齢者福祉への功労者の表彰のみ実施した。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため式典は中止

実施委員会の開催 2回（6月19日、3月26日）

(6) 福祉用具（車椅子）の貸出し

区民及び研修（福祉体験）のための車椅子無料貸出 154件

(7) 移送サービス事業の実施（移送車による移送サービス、車両貸出し、移送ボランティア研修会・交流会の開催、運営委員会の開催）

ア 移送サービス利用件数 85件（車両貸出は0件）（※平成31年度 121件）

イ 運営委員会の開催 1回（7月22日）

ウ 移送ボランティア交流会の開催 1回（3月30日）

エ 移送ボランティア研修会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(8) 子育て支援事業の推進（こども子育て支援事業推進委員会の開催、子育て支援講座の開催、子育て支援グッズの貸出し）

ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 4回（7月29日、10月23日、12月7日、3月12日）

イ 子育て支援講座の開催 1回（2月24日）を予定した。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期

ウ 子育て支援グッズの貸出し 39件（個人向け6件、機関・団体向け33件）

(9) ふれあい会食・配食、ミニデイケア実施団体交流事業の開催

会食会や配食に関わるボランティアが集い、高齢者に配慮した食事について学び、献立について情報交換をすることで、区内の高齢者向け食事サービス活動がより活性化されることを目的に高津区役所保健福祉センターと共催での開催を予定した。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

6 団体等助成事業

(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,706,560円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計3,425,100円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成（審査会の開催）

ボランティア・当事者団体等への助成金 57団体 計1,916,000円

(4) ふれあい会食・配食、ミニデイケアへの助成

ア 会食活動に助成 13団体 計1,606,122円（未実施戻入488,000円）

イ 配食活動に助成 0団体

ウ ミニデイケアに助成 1団体 計80,745円

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成（推進委員会への参画）

第70回社会を明るくする運動への助成 50,000円

(6) 寄付金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計145,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（8月、1月18日 ※ともに書面表決）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

年末見舞金の配布 720世帯・計2,160,000円

年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催 1回（12月10日）

8 福祉パル管理運営事業

(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

研修室A 124件、研修室B 15件、フリースペース 274件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

印刷機は新型コロナウイルス感染防止のため予約制により貸出

(4) 福祉広報物の配架・掲示

行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 相談・問合せ件数 1,325件

イ 区内貸付決定件数 32件

(2) 新型コロナウイルスの影響による収入減少世帯への特例貸付（令和2年3月25日～）

ア 相談・問合せ件数 11,512件

イ 区内貸付決定件数 3,189件

(3) 貸付調査委員会の開催、民生委員児童委員を通じての現況調査

区民児協常任理事会で新型コロナウイルスによる収入減少世帯への特例貸付について報告。現況調査は神奈川県社協からの依頼が無いため実施していない。

(4) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

10 ボランティア活動振興事業

(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（6月15日）、事業企画部会の開催 7回（4月30日、6月15日、8月18日、10月6日、12月14日、2月1日、3月22日）

※4月30日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) ボランティア講座の開催

ア 傾聴入門講座の開催

（ア）1回目（11月5日） 参加者16名

（イ）2回目（1月7日） 参加者9名

イ 災害ボランティアセンター研修会の開催（10月30日） 参加者15名

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

- ア ボランティア活動依頼 14件（平成31年度 41件）
- イ ボランティア活動希望 27件（平成31年度 24件）

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計145,000円

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

- ア 第10回たかつボランティアまつりの開催
 - イ 福島原発被災地ボランティア訪問の実施
- ※両事業とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

- ア 福祉教育に関する相談 4件
- イ 体験用車いすの貸出 8件

(8) 「夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習」の実施（川崎市社協・市内他区社協・関係施設等の共催）

- ア 「チャレボラ2020」の実施 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- イ ニヶ領用水清掃ボランティア体験（8月2日）参加者10名

1.1 日常生活自立支援事業

(1) 日常生活自立支援事業及び成年後見制度の利用に関する相談対応

相談件数 2,284件（初回相談 77件、継続相談 2,207件）
（平成31年度 相談件数 2,438件〔初回相談 97件、継続相談 2,341件〕）

(2) 福祉サービス利用援助サービス、日常的金銭管理サービスの提供

サービス契約者 48件（平成31年度 57件）

(3) 書類等預かりサービスの提供

サービス契約者 3件（平成31年度 3件）

1.2 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 32,232人（団体20,157人、個人12,075人）
（平成31年度 83,978〔団体47,092人、個人36,886人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 373回、3,641人
(平成31年度 408回、5,316人)

(3) ミニデイケアサービス事業

上作延老人いこいの家で実施 参加人数29人・ボランティア人数65人、4回(9月17日、10月15日、11月19日、12月17日)
※末長老人いこいの家、東高津老人いこいの家は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(4) 夜間・休日開放事業

梶ヶ谷老人いこいの家で受託 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会 11回(6月4日、6月26日、7月7日、7月29日、9月7日、9月15日、11月20日、11月24日、11月30日、3月23日、3月30日)

1.3 川崎市高津老人福祉・地域交流センター事業

(1) 年間利用者数

28,291人(老人福祉センター19,429人、地域交流センター7,648人)
(平成31年度 48,775人〔老人福祉センター36,034人、地域交流センター12,741人〕)

(2) 教養講座

9講座 80回 参加者938人
(平成31年度 22講座 188回 参加者3,146人)

(3) 機能回復訓練(転倒予防教室)

12回 263人
(平成31年度 24回 参加者761人)

(4) 行事

ア 老人福祉センター行事
1行事 215人(平成31年度 4行事 参加者622人)
イ 地域交流センター行事
5行事 203人(平成31年度 4行事 参加者703人)

(5) 健康保持増進事業

3事業 67人(平成31年度 7事業 参加者386人)

1 4 公益事業

(1) 福祉パルたかつ及び高津老人福祉・地域交流センターにおける高齢者フリーパスの販売・交付

販売実績 651件（福祉パルたかつ157件、高津老人福祉・地域交流センター494件）

（平成31年度 販売実績 1,077件〔福祉パルたかつ218件、高津老人福祉・地域交流センター859件〕）

1 5 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティアセンター設置運営訓練

ボランティア事業の中で災害ボランティアセンター研修会を開催（10月30日）

参加者15名

1 6 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、支会委員会の開催（書面表決）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施。

募金実績 一般募金10,970,553円 達成率72.2%

年末たすけあい募金7,625,027円 達成率72.6%

※高津区支会委員会、街頭募金は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（常任理事会、総会等の開催）、連絡調整、研修会の開催、その他事業を実施。

1 7 その他

(1) 総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係機関・団体と連携して支援に努めた。

(2) 行政との協働・連携（地域みまもり支援センターとの連絡会議の開催、多世代交流事業の促進、障がい当事者に関する講座等の実施）

高津区役所地域みまもり支援センターとの連絡会議を定期的に行い、情報交換を行うとともに、地域福祉懇談会の開催や地域のサロン活動の立ち上げなどについて協働した。

(3) たかつ心のパワーアップセミナーへの協力

第14回たかつ心のパワーアップセミナーの実施 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(4) 高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

(5) 福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

区内団体等からの依頼に基づき後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生等を受入れた。

(7) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

市社協の各種事業・取り組みに協力した。

川崎市宮前区社会福祉協議会

令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動拠点の調査及び開拓

宮前区では区内に50を超えるコミュニティカフェがあり地域住民の集まれる拠点としての役割も担っていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、区内の多くのカフェが活動を自粛せざるをえない状況となりました。区社協で事務局をつとめているみやまえカフェ連絡会においても全体としての連絡会は実施できず、役員会を実施し状況の確認を行いました。7月に区内の各カフェにコロナ禍での開催状況の実態調査を実施し、一部感染対策を講じた上で開催しているカフェも見られ、調査結果の情報共有を行いました。また、年末たすけあい募金を原資とした福祉団体育成支援金を活用した新たなカフェが創設されています。

2 区社会福祉協議会のPR活動の強化

新型コロナウイルス感染拡大を受け、編集委員会の開催が困難となり、「みやまえの福祉」6月1日号は休刊となりました。9月1日号以降は発行することができましたが、町内会回覧版が休止している状況で、広報の方法に課題が残りました。一方でホームページのアクセス数については、新型コロナウイルスによる特例貸付の実施に伴い、前年比1.7倍となりました。

3 地域福祉活動人材の発掘・養成

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、住民からのボランティア相談が極端に少ない年となりました。また、令和2年度は夏休みのチャレンジボランティアが中止となった他、区社協で行うボランティア関連の研修も実施を見合わせました。新しい生活様式に即した形でZoomなどのネットワークを活用した形での研修実施の必要性を感じました。

4 相談機能の強化・充実

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で仕事が減り、収入が減少した方を対象とした特例の緊急小口資金、総合支援資金の対応に追われた1年となりました。面接、電話を含め延べ1万件を超える相談対応を行いました。相談を受ける中で、生活費の貸付のみならず、市社協で行っている食糧支援「食かわ」を利用して、食料を手配して届ける対応も行うなど、相談機能の充実をはかりました。

5 地域の福祉団体との協働による事業の充実

令和2年度はイベントや行事の中止が相次ぎ、地域の福祉団体との協働を行うことが難しい年度となりましたが、一部の社会福祉法人や、ボランティア団体が行う事業に共催する形で協働することができました。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【53,726千円】

【サービス区分事業活動支出 48,361千円】

【共同募金配分金 5,365千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 5回（内4回書面決議）
- ・ 運営協議会の開催 1回（書面決議）

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 3回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 4回

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催し協力を依頼し、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやま福祉フェスティバル実行委員会、買い物支援サービス運営委員会を随時開催した。

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の策定

令和2年度は計画策定の年度にあたり、常任委員会に諮りながら、運営協議会で意見を伺い策定を行った。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまカフェ連絡会について、新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会（4回）と実態調査を行った。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

例年開催していた地域懇談会を常任委員会研修会として位置づけ企画したが、新型コロナウイルス感染拡大への懸念から開催を中止した。

(2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大への懸念から地域懇談会は未実施となった。

(3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

今年度は有馬鷺沼地区社会福祉協議会の研修会に対し、企画・調整等の支援及び経費の一部を助成する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、開催見込みが立たず、中止とすることとなった。

4 企画・広報事業

(1) 第19回 宮前区地域福祉功労者表彰式の開催

例年、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」に関し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の懸念から、フェスティバルとしての開催は行わず、「宮前区地域福祉功労者表彰式」として、地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典の開催を行った。

(2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行（全3回発行）

平成29年度から、「宮前・ボランティア活動情報」と一本化し、地域の福祉情報等を掲載し区内の福祉活動の啓発に努めた。なお例年、関係者・関係機関・町内会自治会への配布を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より、町内会自治会の回覧が中止されたことを受け、各号の発行部数を見直したが、地域に向けた情報発信と社協の実施事業への理解を図ることを目的に、町内会自治会長への広報誌の送付を行うなどの取り組みを行った。

(3) ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、社会福祉協議会の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症に関連し、生活福祉資金特例貸付の案内や、福祉パルの開所日時の変更について、随時ホームページによる情報発信を行い、貸付を希望する方に向けた利便性の向上を図る取り組みを行った。

(4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、町内会・自治会の回覧版が休止となり、新しい生活様式に即した情報発信の在り方について検討をはかった。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施。

(2) 子育て支援事業の実施

① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくりを推進するために、子育て支援関係者連絡会に参画し、転入世帯を支援するWELCOME!みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ交流会、サロン・広場等交流会を実施するなど、関係機関、団体と協力し事業に取り組んでいる。令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大を受け、規模縮小、中止となる事業が多かった。

② ふれあい動物コーナー実施

みやまえ子育てフェスタにて、例年未就学児世帯を中心とした親子のふれあいを目的に、移動動物園を実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため移動動物園は中止となった。みやまえ子育てフェスタは規模縮小、内容を変更して実施。

(3) 移送サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、家庭において移動することが困難な高齢者や身体障がい者等、既存の交通機関の利用が困難な方に対し、運転ボランティアの方々のご協力のもと、移送サービス用車両（車いす用スロープ付き車両）2台を活用した移動支援を実施。

① 定例会の開催

毎月1回 第3土曜日に開催し、活動報告、情報交換、コーディネートを行った。

② 令和2年度移送サービス利用状況

宮前移送ボランティア数：22名

賛助会員数：16名（内訳：高齢者（要介護）：6名・（要支援）：1名、身体障がい者：8名、知的障がい者：1名）

(4) 車いす貸出事業

保有台数20台（うち1台は子ども用） 貸出回数111台

(5) 買い物支援サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設の車両を借り、運転・添乗ボランティアの協力のもと運行した。

協力法人施設：社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設鷺ヶ峯

社会福祉法人アピエ 宮前フレンズ

社会福祉法人子の神福祉会 特別養護老人ホーム富士見プラザ

(6) 医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

②徘徊高齢者SOSネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前に登録することにより、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえSOSネットワーク」に協力をした。

③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

(7) 在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催している「在宅介護者のつどい」への情報提供並びに他機関や地域に向けた広報活動の支援を行った。

6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

(1) ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

(2) 地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会 (30,000円助成)

宮前区子ども会連合会 (20,000円助成)

7 共同募金配分金事業

(1) 共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて14,294,679円の実績をあげることができた。

(2) 年末たすけあい見舞金配分事業

①年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を313世帯に見舞金として配分した。(1人あたり5,000円)

②福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう12団体に総額655,000円の助成金を交付した。

③宮前区社協福祉協議会の地域福祉に関する事業に配分を行う。

8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

(1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 263件 2,870人 / フリースペース利用件数22件 77人

(2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等活動に必要な機器、機材の貸し出し

9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

(1) 相談件数

11,844件 (特例貸付含む)

(2) 新規貸し付け決定数

15件、8,716,000円 (特例貸付含まず)

(3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例貸付の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少があった世帯の向けの特例の緊急小口資金及び総合支援資金の貸付を行った。

申請件数3,524件、申請額1,324,940,000円

10 ボランティア活動振興事業

相談・情報提供・連絡調整・啓発・人材養成を行い、宮前区のボランティア活動の振興を図った。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 2回開催

(2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティアの需給調整及びボランティア活動等の情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望29件、ボランティア依頼11件

(3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまえの福祉」と一本化し、年3回、団体、施設、個人からのボランティア相談・依頼のほか、災害ボランティアや福祉情報を掲載し、(発行部数1,200部。フルカラー印刷。主な配布先 関係者・関係機関・町会自治会回覧) 区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

① 小中学校の福祉教育授業への協力

(ア) 区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車椅子等の貸出

(イ) 講師の紹介

② 関係施設・機関等の研修への協力

(ア) 区内関係施設・機関の研修への車椅子等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて未実施。

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2020」の開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて未実施。

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口業務を行った。

令和2年度保険加入件数264件

11 日常生活自立支援事業

「宮前区あんしんセンター」にて、区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施や成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行なうとともに、地域への広報活動を行なった。

- (1) 福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービスの実施
- (2) 書類等預かりサービスの実施
- (3) 成年後見制度の利用に向けた相談、支援
- (4) 関係機関との連携及び連絡調整
- (5) 地域への広報活動

相談件数 2,522件 利用者数 利用援助・金銭管理89名、書類預かり1名

1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所¹の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を図った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数（5館） 11回

(2) 管理人研修会

2回実施、各17名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数（5館） 23,032人

(4) 教養講座の実施

教養講座実施回数、参加者数（5館） 延べ78回、724人

(5) ミニデイケア事業の開催状況（3ヶ所）

参加人数 計 128人 ・ ボランティア数 計 205人

(6) 夜間・休日等施設開放事業（1ヶ所）

利用人数 計562人

1 3 川崎市みやまえ老人福祉センター事業

(1) 年間利用者数の状況

年間利用者数 18,932人

(2) 各種講座の実施

講座種類 17種類 講座実施回数 127回 延べ参加者数 1,194)

(3) 講座作品展と発表会

開催回数 5回 参加者数 78名

(4) 各健康保持増進事業

- ・健康フェアの開催 (開催回数1回 参加者数 18名)
- ・健康保持増進に関わる講座 (講座回数 2回 参加者数 15名)
- ・機能回復訓練事業 (開催回数 33回 延べ参加者数 450名)

(5) 各行事の開催

ボッチャ大会、ゆず湯などの行事 (開催回数 3回 参加者数 96名)

1 4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業 (高齢者フリーパス交付) の実施

高齢者の社会活動への参加を促進し、福祉の増進を図ることを目的に川崎市高齢者フリーパスを交付した。(対象者:70歳以上の方に「川崎市高齢者フリーパス」を交付(有料)し、バスに乗るときにフリーパスを提示して乗車)

令和2年度交付枚数3,398枚

1 5 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

令和2年度については行政の防災訓練を含め中止となり、災害ボランティア活動に関する啓発は未実施となった。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

宮前区地域防災連絡会議全体会議なども中止となった。

1 6 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力 (再掲)

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCafeみ〜や」

新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会(4回)と実態調査を行った。

(4) 関係団体の事務協力

1 7 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

令和3年賀詞交歓会は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施

川崎市多摩区社会福祉協議会 令和2年度事業報告

◆重点事業◆

1 ボランティア活動の振興（基本目標1－行動計画1－2）

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて多くの事業が中止となりましたが、川崎市社会福祉協議会の福祉施設へマスクを寄付するためにご家庭で使う予定のないマスクを募集する「とどけよう！かわさきマスク」事業の中で、福祉パルたまにマスクの回収ボックスを設置してマスクの募集を行いました。また、「地域生活支援SOSかわさき事業の食料支援かわさき」では、区社協会員や関係団体等に呼びかけて食料を募集し、食料を必要としている世帯へお渡ししました。

福祉教育としては、オンラインで小学校と当事者施設をつなぎ、小学生と障害者との交流を図る学習の調整を行いました。また、かわさきキャラバン隊がNEC玉川プロボノ倶楽部と協働して実施している「知的障害者疑似体験」が、コロナ禍でも体験ができるようオンライン化に協力しました。

2 災害支援ボランティア活動の推進（基本目標1－行動計画2－2）

例年、多摩区役所が実施する総合防災訓練において災害ボランティアセンターの周知活動を行っていましたが、今年度は、総合防災訓練が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となり、周知活動も実施できませんでした。そのため、多摩区民生委員児童委員協議会理事研修会での「川崎市ぼうさい出前講座」の実施についての調整に協力し、その中で災害ボランティアセンターの周知を行いました。

3 情報提供の充実（基本目標2－行動計画3－1）

多摩区社会福祉協議会の事業活動の紹介や、関連する福祉情報の提供を行うとともに、広く社会福祉に関する啓発を行うとともに、今年度は新型コロナウイルス感染症に関する区社会福祉協議会の対応等について適時に情報を提供するように努め、広報紙「区社協だより多摩」を年3回発行し、ホームページへの掲載や音声版広報紙の作成により、多くの区民への情報提供を行いました。

また、福祉パルたまの移転については、平成30年度から具体的な検討を行い、令和2年4月に現在の場所に移転しました。

移転前の福祉パルたまには、上りエスカレーターのための設置のため、障害者・高齢者等の利用者の利便性の確保が課題となっていました。新しい福祉パルにはエレベーターが設置されるなど、利便性も大きく向上しています。

4 安定的に持続した組織・基盤づくり（基本目標2－行動計画4－3）

令和2年4月に川崎市社会福祉協議会と法人合併を行い、組織基盤を強化しました。また、「川崎市多摩区社会福祉協議会第4期地域福祉活動計画」については、自然災害、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、会員や関係機関、団体等と協議を重ねて後期の計画の見直しを行いました。

令和3年度からは、多摩老人福祉センターが川崎市社会福祉協議会の組織改編に伴い川崎市社会福祉協議会施設事業部へ移管することとなったため、事業整理及び調整にあたりました。

事業報告の内容

川崎市多摩区社会福祉協議会 事業費【 48,002千円】

【サービス区分事業活動支出 39,329千円】

【共同募金配分金 8,673千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会、正副会長会議の運営

ア 常任委員会の開催 3回

5月29日（書面表決）、9月25日、2月22日（書面表決）

イ 運営協議会の開催 1回

3月25日（書面会議）

ウ 正副会長会議の開催 5回

4月3日、9月14日、12月14日、1月25日、2月12日

(2) 一般会員、賛助会員、協賛会員の募集

各地区社会福祉協議会（町会自治会、民生委員児童委員等）の協力により、10月から賛助会員を募集しました。

実績 3,310件、4,705,000円

また、自主財源確保のための各種会員募集・寄附金募集では、広報紙や区社会福祉協議会ホームページを活用した広報活動を行いました。

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の中間見直し

計画期間前半の川崎市社会福祉協議会との法人合併や、自然災害、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、会員や関係機関、団体等と協議を重ねて後期の計画の見直しを行いました。

(2) 合併に伴う事業等の見直しと整理

川崎市社会福祉協議会の支部として常任委員会、運営協議会を設置し適正に区社会福祉協議会の運営を行いました。

また、令和3年度からの多摩老人福祉センターの川崎市社会福祉協議会への移管に向けた検討と事業の整理等を行いました。

(3) 種別会議等によるニーズ調査

第4期地域福祉活動計画の中間見直しにあたり、各種別の会員から意見聴取を行い、その結果を「第4期地域福祉活動計画中間見直し報告書」に反映しました。

(4) 区社会福祉協議会・地区社会福祉協議会研修会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止しました。

3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社会福祉協議会だより多摩」の発行

区社会福祉協議会の事業活動の紹介や、関連する福祉情報の提供を行うとともに、広く社会福祉に関する啓発を行うため、広報紙「区社協だより多摩」を年3回発行しました。

広報紙は、区社会福祉協議会会員や関係機関等への配布と併せ、多摩区内の町会・自治会での回覧（年2回）とタウン誌の一部ページを買い取った形での掲載（年1回）を行いました。さらに、ホームページへの掲載や音声版広報紙の作成により、多くの区民への情報提供を行いました。

(2) ホームページの運営

ホームページでは、随時老人いこいの家や多摩老人福祉センターでの区社会福祉協議会の各種講座の周知やボランティアの募集、老人いこいの家の月間予定等の情報の更新・発信を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症に関する区社会福祉協議会の対応等について適時に情報を提供しました。

(3) 第13回多摩区社会福祉大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止しました。

(4) 多摩区民祭への参加による啓発活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため多摩区民祭が中止となりました。

4 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会活動の支援

区内の5つの地区社会福祉協議会が主体的に地域福祉活動に取り組めるよう支援を行うとともに、相互の連絡調整や連携のための地区社会福祉協議会会長会議を開催しました。また、当該会議の中でコロナ禍での各地区社会福祉協議会の活動に関する情報交換や今後の方向性についての検討も行いました。

(2) ふれあい子育てサロン「いちにのさん！」の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止しました。

(3) 車椅子の貸出

障害や高齢、病気やけが等で外出が困難な区民の生活上の便宜や社会参加を促進するため、車椅子の貸出しを行いました。車椅子を管理していく上では、傷害保険・賠償責任保

険に加入するとともに、破損や劣化が見られる物については随時メンテナンスや廃棄を行いました。

貸出台数 延84台

5 団体等助成事業

住民主体による福祉・ボランティア活動を推進するため、活動団体に情報提供や連絡調整等の協力支援を行いました。

賛助会費を原資とした「地域福祉活動費助成」や、会食会、配食サービス、ミニデイサービス活動を対象とした「ふれあい活動支援事業助成」等の助成事業を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動の支援を行いました。

寄付金品を受入れ、「助成金配分委員会」を開催し、第9種会員（障害者等当事者団体）、第10種会員（ボランティアグループ）及び区内福祉施設等への寄附金品の配分を行いました。

6 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動への協力

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を実施しました。

共同募金（一般募金）実績額	11,181,301円
年末たすけあい募金実績額	7,069,239円

(2) 共同募金配分事業の実施

神奈川県共同募金会からの配分金を各地区社会福祉協議会に育成交付金として交付するとともに、地域福祉の推進のために開催される行事への助成を行ったほか、本会が行う各種事業に充当して有効に活用しました。

一般募金配分金額	531,866円
年末たすけあい募金配分金額	4,598,127円

ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付

年末たすけあい配分委員会において交付額等を検討し、申請のあった福祉的ニーズを持つ世帯に年末慰問金を交付しました。

交付額	3,125,000円	配布世帯	625世帯
		1世帯への交付額	5,000円

イ 福祉車両の貸出事業の実施

障害や身体機能の低下等で、公共交通機関による移動が困難な方を対象に「福祉車両貸出しサービス」を実施していますが、今年度は利用の申請がありませんでした。

ウ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成

地域福祉活動の立ち上げを支援する「地域福祉貢献事業起業助成」事業については、

今年度は申請がありませんでした。

- エ 福祉関係団体、行事への助成（母親クラブ、社会を明るくする運動、多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり）

多摩区内の6つの母親クラブの活動を支援するため、各地区社会福祉協議会を通じて1クラブ5,000円の助成を行いました。また、区民への子育て情報の提供や入会希望者の各団体への紹介の調整等を行いました。

また、社会を明るくする運動には、60,000円の助成を行いましたが、多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつりは、コロナ禍で中止となったため助成もありませんでした。

7 福祉パル管理運営事業

(1) 福祉パルたまの移転の実施

移転前の福祉パルたまは、エレベーターが未設置であり、障害者・高齢者等の利用者の利便性の確保が課題となっていたため、平成30年度から具体的な検討を行い、令和2年4月に現在の場所に移転しました。

新しい福祉パルにはエレベーターが設置され、一般用及び障害者用トイレも全自動化されるなど利便性も大きく向上しています。

(2) 研修室、ボランティアコーナーの利用提供

川崎市から「福祉パルたま」の管理運営業務を受託し、地域福祉活動・ボランティア活動の拠点施設として、研修室及びボランティアコーナーの利用提供を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために4月11日から6月30日までは休館、7月からは利用時間の短縮、人数制限を行うなど安全に十分に配慮して行いました。

	年間利用件数	年間延べ利用者数
研修室	196件	2,009人
ボランティアコーナー	73件	256人
印刷機利用	110件	—

8 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付制度の緊急小口資金及び総合支援資金は、例年、相談件数が延2,000件から2,400件、申請件数が10件から30件程度ですが、令和2年3月25日から新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付が設けられたことにより、令和2年度は、延17,171件の相談を受け、3,047名から4,028件と膨大な件数の申請がありました。その内、年度内に貸付を決定した件数は3,037件となりましたが、貸付け対象とならなかった相談についても、他機関の紹介や他制度の情報提供等を行いました。

9 ボランティア活動振興事業

(1) 多摩区ボランティアセンターの運営

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて多くの事業が中止となりました。その中で川崎市社会福祉協議会が実施した福祉施設へマスクを寄付するためにご家庭で使う予定のないマスクを募集する「とどけよう！かわさきマスク」事業について、多摩区社会福祉協議会では福祉パルたまにマスクの回収ボックスを設置してマスクの募集を行いました。

また、「地域生活支援SOSかわさき事業の食料支援かわさき」では、区社協会員や関係団体等に呼びかけて食料を募集し、食料を必要としている世帯へお渡ししました。

(2) ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりパサージュ・たまの出店数が制限されたため、ボランティア相談会「たまぼらひろば」の出店は見合わせました。

また、区民・関係機関等からの相談については、多摩区ボランティアセンター運営委員会に報告し、ボランティアニーズの共有化を図りました。

＜年間相談件数＞

- ・ボランティアをしたい方の相談： 12件
- ・ボランティア受け入れ希望者の相談： 9件

(3) ボランティア情報誌「たまぼら」の発行と区社会福祉協議会ホームページを活用したボランティア情報の発信

ボランティア活動に対する様々な情報の提供を通じて、ボランティア活動への理解や関心を高めることを目的に、ボランティア情報誌「たまぼら」を発行（2,047部発行）し、区内の関係機関やボランティア活動希望者に送付するとともに、区社会福祉協議会のホームページに掲載しました。

今年度は「地域生活支援SOSかわさき事業の食料支援かわさき」事業について掲載し、食料の募集を行いました。

また、区社会福祉協議会ホームページでボランティアグループの紹介や、ボランティアの募集情報の発信を行いました。

(4) 大学生へのボランティア活動の啓発

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、例年実施していた日本女子大学での「大学生を対象としたボランティアに対する意識を知るための交流会」は中止しました。

(5) 各種ボランティア講座の開催

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ボランティア講座は全て中止しました。

(6) 福祉教育の推進

従来、当事者が学校を訪問して行っていた福祉教育について、非対面のできる交流として、オンラインツールを活用した取り組みなどの調整を行いました。12月には、宿河原小学校と地域活動支援センターいっぽ舎をオンラインでつなぎ、小学生と障害者との交流

を図る学習が行われました。

また、福祉教育推進のための各種事業の方向性や課題を検討する福祉教育推進委員会を開催し、セミナーグループ・サポートグループの2つのワーキンググループに分かれ、福祉についての啓発を目的とした事業の取り組みについて話し合いを行いました。

ア 福祉教育に関する相談支援

相談件数	9件（小学校4件、中学校3件、その他2件）
対応件数	18件（相談1件について複数対応あり）
講師の紹介件数	6件（当事者団体、福祉施設職員及び利用者等）
福祉用具貸出件数	12件

イ 教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。

ウ 福祉教育セミナー、親子参加型福祉講座の開催

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。

エ 福祉教育ハンドブックの効果的な活用の検討

福祉教育ハンドブック第5版を作成し、区内の学校や関係機関に配布しました。

オ 福祉教育用福祉用具の貸し出し

貸出件数 12件・・・（ ）内は貸出した台数

高齢者疑似体験セット	5件（44台）
点字器	3件（41台）
白杖セット	1件（7台）
妊婦体験ジャケット	3件（5台）

カ 知的障害者疑似体験デモ体験会への参加・協力

かわさきキャラバン隊がNEC玉川プロボノ倶楽部と協働で実施している「知的障害疑似体験」がコロナ禍でも実施できるようオンライン化に協力しました。

また、その一環として企画された知的障害疑似体験のデモ体験会（2月19日）に、福祉教育推進委員が参加しました。

10 日常生活自立支援事業

高齢者や障害者で、福祉サービスの利用契約や日常的な金銭管理を行うことに不安のある方が、地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等のサービスを行いました。

新規相談ケースについて調査を行い、必要なケースは川崎市あんしんセンターの審査を経て、当該決定に基づき支援を行いました。

専門員は川崎市社会福祉協議会・県社協・全社協開催の研修、生活支援員は川崎市社会福祉協議会開催の研修へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めました。

また、次年度から利用者のうち生活保護受給者が、民間事業者の実施する被保護者金銭管理等支援事業に移行するため、市社会福祉協議会あんしんセンター及び区役所保護課と調整して、対象となる利用者への説明を行いました。

1 1 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館（登戸、菅、錦ヶ丘、長尾、枅形、中野島、南菅）老人いこいの家の管理運営

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が発出されたことに伴い、川崎市の運営方針に基づき、宣言の対象期間の4月11日から5月31日までを休館としました。再開後も対応方針により利用制限を設けながら、感染拡大防止策を徹底した運営を行いました。

例年実施していた利用団体の活動を発表する場としての講座発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。また、こども世代との交流事業は、3密にならないように配慮し、登戸・長尾老人いこいの家で実施しました。

団体利用者数 19, 230名（利用団体数 2, 756団体）

個人利用者数 7, 772名

(2) いこいの家公開講座の開催

地域の方々に老人いこいの家を周知し、利用を促進するためのきっかけ作りとして公開講座を開催しました。「終活を知ろう」というテーマで企画し、地域の企業の方に講師を担っていただき、少人数で複数回開催するなど新型コロナウイルス感染症予防の工夫を行いながら開催しました。

(3) こども文化センター等との多世代交流事業の実施

老人いこいの家での多世代交流は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

こども文化センターと合築になっている長尾老人いこいの家では、敬老の日とクリスマスに、非対面でプレゼント交換する形での交流を行いました。

また、単館の登戸老人いこいの家では、利用者が近隣のこども文化センターの子どもたちから送られたDVDを見て、感想の手紙を送る形での交流を行いました。

(4) 「ふくし寄合処たま」の開催

誰でも気軽に来られる居場所と相談機能を兼ね備えた「ふくし寄合処たま」を、新たに錦ヶ丘老人いこいの家を加えた区内5館（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の老人いこいの家で10月から月1回開催しました。

域包括支援センターなどの関係機関と共に地域の方々からの相談を受ける中で、地域の福祉的ニーズを把握し、課題解決に努めました。

(5) 老人いこいの家運営委員会、老人いこいの家運営委員長会議の運営

南菅老人いこいの家で1回開催しましたが、他の老人いこいの家は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止しました。

(6) 管理人、臨時職員研修会の開催

老人いこいの家管理人と臨時職員を対象に、AEDの使用方法を含む救命救急講習を実施しました。

(7) 区内3館（登戸、菅、中野島）の老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

川崎市からの受託により、区内3館（登戸・菅・中野島）の老人いこいの家において、地区社会福祉協議会やボランティアグループによるミニデイケアサービス事業を計画しましたが、新型コロナ感染拡大防止のため中止しました。なお、参加を予定していた利用者には見守りのため、実施メンバーから電話や手紙等による安否確認を行いました。

1 2 多摩老人福祉センター運営事業

令和2年4月7日付で、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が発出されたことに伴い、川崎市の運営方針に基づいて4月11日から5月31日までの期間を休館しました。

また、再開後も川崎市及び川崎市社会福祉協議会の方針等に基づき、カラオケ、卓球、入浴等の利用制限を行い、各部屋の利用人数制限を設ける中で、利用者にも感染予防の徹底をした上での施設利用の協力を呼びかけました。

各種講座やイベントについては、適宜中止又は開催時期の変更などの対応を行う中で、いきいき健康フェア（嘱託医による健康講座とボッチャ体験）や仏教美術歴史講座、ロコモン体操等の一般講座を実施しました。

1 3 公益事業

(1) 川崎市高齢者フリーパスの販売

川崎市社会福祉協議会から川崎市高齢者外出支援乗車事業を受託し、川崎市高齢者フリーパスを年間3,459件（うち福祉パス685件）販売しました。

1 4 災害活動関連事業

例年、多摩区役所が実施する総合防災訓練において災害ボランティアセンターの周知活動を行っていましたが、今年度は、総合防災訓練が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となり、周知活動も実施できませんでした。そのため、多摩区民生委員児童委員協議会理事研修会で、「川崎市ぼうさい出前講座」を実施し、その中で災害ボランティアセンターの周知も行いました。

1 5 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を推進しました。（「6 共同募金事業」の再掲）

(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

区内の各地区民生委員児童委員協議会の連携を目的とした多摩区民生委員児童委員協議

会の事務局を担い、地域福祉活動の推進に深く関わる民生委員児童委員活動への支援を行いました。

(3) 多摩区当事者・ボランティア連絡会「たまわかくさ」への協力支援

区内を拠点に活動している福祉当事者や、ボランティアグループ等で組織している「たまわかくさ」の事務局として、運営委員会や研修会等の実施を支援するとともに、活動経費の助成を行いました。

16 その他

地域の福祉関係機関・団体との円滑な連携関係を構築し、地域における福祉的課題の把握に努めるとともに、川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力し、地域福祉の推進を図りました。

また、昨年度に引き続き、明治学院大学の社会福祉士の相談援助実習生を受け入れました。

川崎市麻生区社会福祉協議会 令和2年度 事業報告

◆重点事業◆

1 区民の福祉への理解を促進する福祉啓発の推進と社会福祉協議会の広報・啓発の強化

広報啓発委員会による福祉啓発事業の実施や学校における児童・生徒を対象にした福祉教育の支援等に取り組むとともに、各種広報紙の発行やホームページを運営しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、啓発イベント等を中止せざるを得ない状況下でも、広報紙の配布については、業者委託によるポスティングや区内新聞折り込みを活用した広報方法の工夫を図り、福祉情報の発信に努めました。

2 地区社会福祉協議会を中心とする住民主体の小地域福祉活動の支援及び地域包括ケアシステムの構築に向けた地域力向上の取り組み

地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協の役員等と共に考え、地区社協支援を行いました。特に今年度はコロナ禍を受け、様々な小地域福祉活動の休止が続く中、「つながりを絶やさない」ための事業実施に創意工夫を凝らし、活動再開に向けた感染防止対策に関する情報提供や連絡調整を随時行いました。

3 ボランティア活動振興センター事業（福祉教育を含む）の充実強化

今年度は、オンライン開催による「はじめてみよう！ボランティア2020（基礎講座）」を実施し、コロナ禍における区内福祉施設でのボランティア活動の現状や意見交換から、今後の新しい生活様式をふまえた麻生区内におけるボランティア活動の展望について考える機会となりました。福祉教育推進については、オンライン活用や感染防止対策のもと福祉機材貸出に対応しました。

4 賛助会員増強の取り組みと区社協財源の確保

賛助会費は、麻生区内の小地域福祉活動を支える貴重な資金であることから、新型コロナウイルス感染拡大防止もふまえ、町内会・自治会のご理解のもと、従来の強化月間を変更し賛助会員の募集を行いました。令和4年度以降の募集方法は令和3年度の実施方法を検証し検討することとなりました。

5 今後の麻生区社会福祉協議会のあり方についての検討

今年度はコロナ禍により、区社協事業も中止や自粛を余儀なくされ、さらに生活福祉資金特例貸付業務の増大は、市社協と区社協の法人合併後の区社協事業推進に多大な影響をもたらしました。

今後、区社協が地域に根差した地域福祉事業に注力し、住民主体の課題解決に向けた取り組みを強化するために、コロナ禍における住民の生活様式をふまえた財源確保策とその合理的・効果的な活用方法、経営基盤の強化について、次年度も継続して検討を進めてまいります。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【46,541千円】

【サービス区分事業活動支出41,236千円】

【共同募金配分金 5,305千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 4回

(5月19日※書面開催、8月24日、12月10日、2月18日※書面開催)

イ 正副会長会議の開催 4回

(5月11日、7月10日、12月1日、2月9日)

ウ 運営協議会(会員意見交換会)の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止(書面報告)

(2) 種別会員会議の開催

令和3年5月31日をもって任期満了を迎える区社協の常任委員会・委員会の委員候補者選出に向けた種別会員会議については、コロナ禍により令和3年4月以降に書面にて開催することになりました。

(3) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和2年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	3,182名	6,203,660円
麻生東地区	1,598名	2,660,900円
柿生地区	1,584名	3,542,760円

(4) 寄託金

令和2年度一般寄附 364,896円 (寄託品で決算上金銭換算したものを除く)

(5) 寄託品

ア 令和2年度寄託品 車椅子 1台

イ マスク回収事業

新型コロナウイルスの影響による深刻なマスク不足を受け、令和2年5月26日から9月30日まで、福祉パルあさお内に「マスク回収BOX」を設置し、未使用のマスクを集め、必要としている福祉施設や保育施設に川崎市社会福祉協議会を通じて配布しました。

合計6,045枚

内訳 政府支給マスクを含む布マスク 1,455枚

子ども用を含む不織布マスク 4, 281枚
 手作りマスク 279枚
 ウレタンマスク 30枚
 他、インナーマスク・取り換えシート 110枚、医療用ガーゼ 10mご寄付
 をいただきました。

(6) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にか
 かわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相
 談機関と協力連携して対応しました。

2 調査・研究事業

(1) 第4期麻生区地域福祉活動計画の策定

令和3年度から令和5年度の3年間を計画期間とする「第4期麻生区地域福祉活動計画」を
 策定しました。

麻生区地域福祉活動計画推進委員会 3回（7月29日、11月25日、1月29日※書面開
 催）

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修の開催

1回（2月19日）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

開催日	場 所	内 容	参加者数
令和3年 2月19日 開催中止	新百合21ビル 多目的ホール	高齢夫婦の日常を記録したドキュメ ンタリー映画「幸せな時間」の上映	—

4 企画・広報事業

(1) 第16回麻生区社会福祉大会の開催（隔年実施）

2月19日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

本会では、地域福祉の発展に貢献していただいた方々の功績を表彰するとともに、区民の
 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる「人にやさしいまちづくり」の実現に
 向け、麻生区社会福祉大会を開催してきました。これまでの大会の企画・運営は、あさお福
 祉まつり実行委員会合同の実行委員会を設けていましたが、今年度は新型コロナ感染症拡大
 防止により、あさお福祉まつりの開催が中止となったため、麻生区社会福祉大会のみ単独で

開催する予定でしたが、長引くコロナ禍の影響を受け中止しました。受賞者には表彰状と記念品を郵送にて送付しました。

(2) 第31回あさお福祉まつり事業

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

麻生区からの委託事業「麻生区地域課題対応事業」である第31回あさお福祉まつりは、区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により開催を中止しました。

(3) 広報啓発委員会の開催

4回（5月※書面開催、8月27日、12月16日、2月※書面開催）

(4) 「親子福祉探検隊」の開催

コロナウイルス感染の影響により、安全の確保が難しい状況ため、開催を中止いたしました。

(5) 「福祉啓発映画会」の開催

令和元年度に開催を中止した「幸せな時間」の映画上映について、麻生区社会福祉大会の第2部として予定しておりましたが、コロナウイルス感染の影響により、開催を中止いたしました。

(6) 広報紙「ほほえみ」の発行

コロナウイルスの影響により、年間2回の発行に変更し、配布については、75号は業者委託によるポスティング、76号は新聞各社の折り込みで配布いたしました。

(7) ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

(8) こどもや若い世代への福祉啓発

ア 「あさお区社協こども新聞」（令和元年度発行）の配布（9月、区内公立小学校全学年児童）

イ アンケート調査実施 1回（協力：岡上小学校の5年生6年生）

地域福祉やこども新聞についてのアンケート調査を実施しました。第3回広報啓発委員会にてアンケート結果の分析を行い、今後のこどもや若い世代への福祉啓発について検討を行いました。

(9) 地域のイベントへの参加協力

ア あさお区民まつり ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ 認知症普及啓発イベント「RUN伴+」実行委員会への参加協力

5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、地域包括支援センター及び教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

ア 車椅子の貸出（件数）	181回
イ 福祉器具の貸出（件数）	228件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。本事業は、令和2年4月に川崎市社会福祉協議会と合併したため、川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

ア 賛助会員数	15名
イ 運転ボランティア登録数	12名
ウ 利用件数	68件
エ 運営委員会の開催	1回（3月9日）
オ 運転ボランティア定例会の開催（奇数月開催）	6回 （7月31日、9月18日、11月6日、1月15日、3月19日）

6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

麻生東地区社協	2,102,280円
柿生地区社協	2,827,522円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

29団体（計758,800円）

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成

11団体（1,688,000円）

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

ア 在宅福祉サービス委員会の開催 4回

(5月25日※書面開催、9月4日、11月17日、1月29日※書面開催)

イ 地域の関係づくりの大切さを考える講演会の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ 地域でともに生きるを考える懇談会の開催 1回

(3月2日※オンラインと会場視聴で開催)

エ 在宅福祉サービス委員会 委員会研修

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 広報啓発事業(再掲)

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

(3) 子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスをを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

ア 子育て支援委員会の開催 4回

(6月4日※書面開催、7月7日、9月1日、2月16日※書面開催)

イ 子育て支援講座の開催

①「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』 4回

(10月16日、11月20日、12月25日、1月15日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

②「ペアレントトレーニング」参加者交流会 1回(9月28日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③ 子育て関連グループ交流会の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

④ 子育て支援講演会の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑤ あさお子育てフェスタへの参加

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

8 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

(2) 共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 424世帯 配分実績額 2,120,000円

イ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）200,000円

ウ あさおオモチャとしょかん運営事業

障害を持つ子ども、持たない子ども、おもちゃを通じてともに遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。なお、4・5月の活動とおもちゃ貸出については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

開館回数 38回

利用者数 300人

運営ボランティア数 延べ230人

次のエ～コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行

いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ380,000円、柿生地区社協へ520,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）

9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各定員を大研修室20人、小研修室7人、フリースペース12人とし、コロナ禍における川崎市行政運営方針に基づいて開館しました。尚、新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付事業実施のため、小研修室については一定期間利用を中止しました。（4月11日～12月28日まで）

※平成23年度から、大研修室〈定員40人〉と小研修室〈定員15人〉の2つの研修室の貸出しを行っています。

※緊急事態宣言発出による全館利用中止（4月11日～6月30日）

※大研修室、フリースペースの利用再開（7月1日～但し、年内の夜間、土日は休館）

(1) 研修室、フリースペースの貸出

- ア 大研修室利用状況 243件 (2,649人)
- イ 小研修室利用状況 39件 (113人)
- ウ フリースペース利用状況 249件 (1,024人)

(2) フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出 (件数)

60件 (5団体)

10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付の相談・申請対応を行いました。

(1) 相談件数 9,152件 (延べ件数) *通常貸付、特例貸付

(2) 新規相談件数 50件 *通常貸付

(3) 貸付申請件数 12件 *通常貸付

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付 申請件数2,380件 (延べ件数)

(5) 事務管理終了

償還完了	総合【2】 教育【2】 緊急小口【6】	10件
移管		0件

(6) 貸付調査委員会の実施 ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

11 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

4回 (5月25日※書面開催、8月5日、11月26日、1月8日※書面開催)

(2) 麻生区ボランティア養成講座の開催

- ア はじめてみよう！ボランティア2020 (基礎講座)
1回 (3月17日※オンライン・会場視聴にて開催)

イ フォローアップ交流会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ ステップアップ講座

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

エ 麻生区ボランティアのつどい（交流会）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（3）学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2020」

（市社協・各区社協等との共催事業）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（4）ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

1回（8月17日）

（5）ボランティア受け入れ担当者向け講座

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（6）ボランティア相談コーナーの開設

毎月第1、第2、第3火曜日の午後1時から3時の間、月に3回、そのうち、第1火曜日は、麻生区役所ロビーにてボランティア相談コーナーを実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

（7）ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

新型コロナウイルス感染症が拡大している中、福祉施設がボランティアを受け入れているのか、また受け入れているのであれば、こういった形で行っているのかについてアンケート調査を行いました。

麻生区社会福祉協議会会員の福祉施設を対象に50施設に依頼し、38施設から回答にご協力いただきました。

（8）ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和2年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

- | | |
|-------------------------|-----|
| ① ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） | 13件 |
| ② ボランティア活動希望（ボランティアしたい） | 25件 |

（9）広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。 2回（11月、3月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

新型コロナウイルス感染症拡大により福祉施設等のボランティア受入募集が少ないため、3月以降は不定期の発行としました。

号数	掲載内容
第102号（1月発行）	・ボランティア情報8件

（10）福祉教育の推進

ア 福祉教育推進委員会の開催 2回（8月18日、1月26日※書面開催）

イ 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整状況

①申込件数 19件（延べ件数）

内訳：小学校14件 中学校5件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 1,934人（延べ人数）

②内容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

（今年度はオンラインを活用した聴覚障害者の講演、手話体験を行いました）

ウ 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

エ 福祉教育推進委員会委員研修

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ 福祉教育に関わる広報啓発

「あさお区社協こども新聞」（令和2年3月発行）を広報啓発委員会と作成し、区内の学校に配布しました。

（11）相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

12 日常生活自立支援事業

区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的とした日常生活自立支援事業を川崎市社会福祉協議会から委託を受け、麻生区あんしんセンターとして平成20年度から実施しています。

（1）組織体制

所長（事務局長兼務）1名、専門員2名、生活支援員6名の体制で運営しています。

（2）事業実績

ア 契約能力判定審査会の出席（6回実施、内2回は書面開催）

- イ 業務監督審査会の出席（6回実施、内2回は書面開催）
- ウ ケース検討会議の出席（33回実施、全て電話またはリモート会議）
- エ サービス実施状況及び利用実績
 - ①福祉サービス利用援助サービスの実施
 - ・福祉サービスの情報提供・助言
 - ・福祉サービスの利用手続き
 - ・福祉サービスの利用料の支払い
 - ②日常的金銭管理サービスの実施
 - ・生活費の出金など、金銭の出し入れの手続き
 - ・家賃や公共料金、医療費などの支払い手続き
 - ③書類等預かりサービスの実施
 - ・定期や定額等の預貯金通帳の預かり
 - ・証書の預かり
 - ・株券を除く有価証券の預かり
 - ・印鑑の預かり
 - ④令和2年度サービス等実施実績（詳細は別表）
 - ・相談件数 3,389件（新規57件、継続3,332件）
 - ・サービス契約者数（令和2年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス	67件
書類等預かりサービス	5件
- オ 成年後見等、各種問い合わせの受付・対応
- カ 関係機関との連携及び連絡調整
 - サービス担当者会議、ケアカンファレンス等への出席（28回）
- キ 生活支援員及び専門員研修の参加

1.3 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

(1) 指定管理事業

ア 老人いこいの家の運営委員会の開催

- ①王禅寺老人いこいの家 1回（3月23日）
- ②片平老人いこいの家 1回（10月19日）
- ③千代ヶ丘老人いこいの家 1回（9月30日）
- ④白山老人いこいの家 1回（11月30日）
- ⑤岡上老人いこいの家 1回（12月9日）

⑥麻生老人いこいの家 2回（10月9日、3月12日）

⑦百合丘老人いこいの家 2回（7月29日、12月7日）

イ 老人いこいの家管理人連絡会議・研修会の開催

①普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生とAED）：川崎市消防防災公社主催
4回（8月2日、11月14日、1月24日、3月24日） 計29名参加

②いこいの家管理人連絡会議
2回（11月27日午前・午後） 計21名参加

③いこいの家代替臨時職員研修 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2回（3月3日・4日）

ウ 令和2年度利用状況 開所日数合計1,610日 利用人数合計37,219人

エ 令和2年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計2,510人（3館分）

（2）ミニデイサービス事業

川崎市からの委託により、片平老人いこいの家において地域の高齢者を対象としたミニデイサービス事業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

1 4 老人福祉センター運営事業

地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活を送れるように、各種の講座・健康相談や地域の拠点施設としての運営を行いました。

（1）令和2年度 利用状況 利用者数 18,607人

（2）各種講座等実施状況 参加者数 2,312人

（3）各種行事実施状況 実施数15行事 参加者数 516人

（4）健康保持増進事業・機能回復訓練実施状況 実施回数54回 参加者数741人

（5）各種相談実施状況

健康相談 〈内科〉第1・3水曜日 3件、〈整形〉第2・4火曜日 24件

1 5 公益事業

川崎市からの委託を受けて、市営・民営バスに乗車する「川崎市高齢者フリーパス」を交付及び販売することにより、高齢者の社会活動への参加を促進し、高齢者の福祉の増進を図りました。

交付枚数 計667枚

1 6 災害活動関連事業

平成29年度川崎市総合防災訓練が麻生区での開催だったことをきっかけに、行政、市社協をメンバーに、麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討しました。

今年度より、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定せず、麻生区の災害ボランティアについて広く検討できるよう、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」と変更しボランティア活動振興センター内に設置しました。

(1) 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催 1回(3月24日)

(2) 麻生区総合防災訓練への参加

開催日 令和2年6月6日(土)

会場 はるひ野小・中学校

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

1 7 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

(2) 麻生区民生委員児童委員協議会

(3) 関係団体の事務協力

(4) 麻生区賀詞交歓会の共催

令和3年麻生区賀詞交歓会 正副会長会議(10月29日開催)にて中止を決定。

1 8 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。